

社会福祉法人ファミリーユ高知

2023年度 事業報告書

自 2023年4月1日

至 2024年3月31日

① 高知ハビリテーリングセンター

事業所名	事業名 (定員)	事業説明	ハビリの特長
障害者支援施設 多機能型→定員40名	自立訓練 機能訓練 20 生活訓練 10	自立した日常生活又は社会生活ができるよう、一定期間、身体機能又は生活能力の向上のために必要な訓練を行います。 機能訓練・・・1.5年間 生活訓練・・・2年間	機能訓練では主に病院退院後の身体・高次脳機能障害がある方に対して、継続したりハビリテーションと社会復帰に向けたアプローチを行います。生活訓練では知的・精神・発達障害がある方に対して生活の自律や社会参加、地域移行に向けたプログラムを提供し、特別支援学校卒業生の専攻科機能も有しています。 ※県内唯一の機能訓練事業所
	生活介護 10	常に介護を必要とする人に、昼間、入浴、排泄、食事の介護等を行うとともに、創作的活動又は生産活動の機会を提供します。	様々な障害特性を持つ方に対して、興味や関心が得られるその人らしい日中活動の提供に加えて、施設入所と協働して生活支援を行い、安心・安全な生活の実現を支援します。
	施設入所 40	施設に入所する人に、夜間や休日、入浴、排泄、食事の介護等を行います。	自立訓練への通所が困難な方や生活支援が必要な方に対して、心身の体調管理や食事・排泄・入浴等の介護、生活上での自立場面の増加などを目的に支援を行います。
	短期入所 (ショートステイ) 2 空床	自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間、夜間も含め施設で入浴、排泄、食事の介護等を行います。	施設入所の利用状況に合わせて事業を運営し、レスパイトが必要な家族のニーズに応え、地域生活の継続に寄与します。
アルベータ	就労移行 10	一般企業等への就労を希望する人に、一定期間、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。(2年間)	職業訓練だけでなく、職場実習を通して実際の業務を体験する機会を大切に、ジョブマッチングを図っています。また、就職後のサポートを継続して行う事で就労を継続し企業との連携を大切に支援を行っていきます。
	就労定着支援	障害福祉サービスを利用して一般就労に移行した障害者が就職した職場で定着して働き続ける為に、必要な支援を行います。(3年間)	
	就労継続支援B型 40	一般企業等での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。	
はるのハビリホーム	共同生活援助 (グループホーム) 36	外部サービス利用型の類型(介護サービスは委託契約を結んだ指定居宅介護事業者が行う)をとり、障害のある人が日常生活上の介護や支援を受けながら共同生活を送ります。	ホーム全体がバリアフリーとなっており身体障害者の方や様々な障害を抱えた方に対応できます。お部屋のタイプもユニットタイプ(居間・食堂など共有)とマンションタイプがあり、安心・安全な毎日を送っていただくように設備しております。
キュール	障害児通所支援事業 放課後等デイサービス 10	学齢期の障害児に放課後や長期休暇中の居場所を提供し、障害特性に応じた環境設定や自立を促進する為に必要な支援の提供を行います。	自然豊かな環境を活かし、室内だけでなく屋外でのレクリエーションを取り入れ、長期休暇中には外出支援や様々なイベントを企画し、余暇の充実を図っています。他事業との連携から、中高生を対象とした就労準備型としての取り組みを行っています。
相談支援事業所	2022年4月1日～休止	特定・・・ 障害者の自立した生活を支え、障害者の抱える課題解決や適切なサービス利用に向けてケアマネジメントをよりきめ細かく行います。 障害児・・・ 特定と同じですが、対象を障害児とします。	当センターの事業を利用している利用者のマネジメントができることでサビ管との連携がスムーズになります。当センターの利用希望をする障害者に対して、支給決定の参考となる書類を市町村窓口へ提出していくことで、利用開始までの流れがスムーズになります。

② しごと・生活サポートセンターウェーブ

事業所名	事業名 (定員)	事業説明	ウェーブの特長
オウんパス	就労継続支援A型 10	一般企業での就労に不安や困難がある障害者に、雇用契約に基づき就業の機会を提供します。(65歳未満)	地域の病院のユニフォームやタオル等のクリーニングを請け負っています。仕事をしていく中で自身の特長と向き合い、働き続けるためのスキルを学んでいます。クリーニング師の資格取得もすすめています。
スウェル	就労継続支援B型 40	一般企業等での就労が困難な障害者に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。	施設内では軽作業とクリーニング作業を行っており、施設外では病院周辺の清掃や地域の農家の方からの依頼を請けて畑作業やハウス作業なども行っています。また作業以外でも文化祭などの余暇活動なども行っています。
相談支援事業所		特定・・・ 障害者の自立した生活を支え、障害者の抱える課題解決や適切なサービス利用に向けてケアマネジメントをよりきめ細かく行います。	新規利用相談から利用開始までの流れがスムーズになり、ウェーブのサビ管との連携も取りやすく、より個々の希望に応じたサービス調整が行えます。



高知ハビリテーリングセンター 事業報告

センター長 西岡由江

はじめに

2023年は、with/after コロナの生活様式への転換、燃料費・原材料費の高騰や様々な社会課題が表出し、短期間では解決するとは思えない情勢に、将来を不安視する声が多く聞かれた1年であったと思います。しかし、そのような時だからこそ、私たちは持続的に地域福祉を提供する存在であり続けることが重要であると考え、様々な課題に対し、柔軟かつ迅速な対応で事業継続に励んでまいりました。

高知ハビリテーリングセンター（以下、ハビリ）は15年を迎えました。開所当初からの理念である「障害があっても自分らしい生活を送ることができる」「利用者を主体として自律に向けてすべてのスタッフが専門性を発揮」「地域と連携を図り地域包括ケアの構築」を実践することに、職員一同心血を注ぎ、障がい者の終の棲家ではなく「通過型」の障害者支援施設として高知県内に輪を広げてきました。

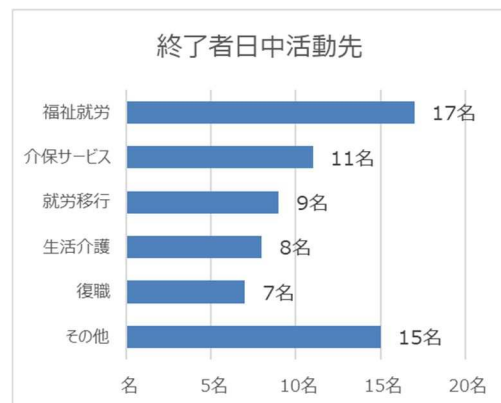
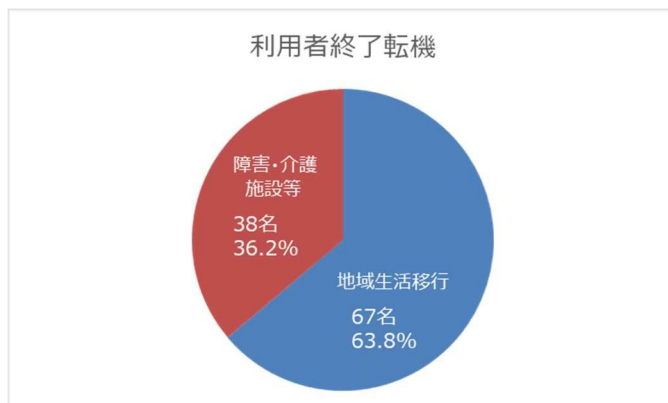
2018年9月のセンター長交代からこの5年間で、組織体制の見直しと、業務改善、支援力強化、人員不足の解消に努め、2024年3月現在、75名の職員と3部門11事業の運営を行っています。特に支援力強化においては、看護師、理学療法士、作業療法士の採用を行い、専門的視点からの評価と支援員の教育に努め、多種多様な障害に対する受け入れが可能となる基礎作りが整いました。2023年度の事業報告ではありますが、過去5年からの実績も踏まえて報告いたします。

事業概要

【障害者支援施設・生活介護・自立訓練】

障害のある方に対して入浴、排せつ、食事等の介護、生活等に関する相談・助言など、日常生活上の支援を行う施設入所と、生活介護や自立訓練（機能訓練・生活訓練）の日中活動とあわせてサービスを提供することで、障害のある方の日常生活を一体的に支援しています。

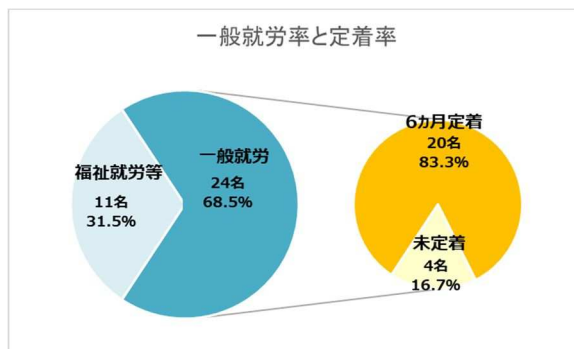
自立訓練の機能訓練は、高知県下唯一の事業で、主に脳卒中後の社会生活リハビリテーションを提供しています。セラピストによる評価に基づいたプログラムの立案と提供が行えるようになり、利用者個々の状態に沿った地域生活につながるようになってきました。生活訓練は精神障害者を対象とした社会的入院からの地域移行や様々な生活課題をもたれている利用者に対して、実生活で活かせる能力の獲得を目指した訓練を提供しています。この数年間で自立訓練の両事業は、障害の評価と見立て、そして利用者の自己決定と現実検討への寄り添いができるようになったことで、円滑に地域生活につなげることができるようになりました。下記のグラフを参照ください。5年間の利用終了者は105名であり、そのうち67名（63.8%）が地域生活移行されています。日中活動先としては、福祉就労17名、就労移行9名、復職7名、の合計33名を就労系に繋いでいる実績は高く評価できるものであると考察します。



【アルベータ就労移行支援・就労定着支援】

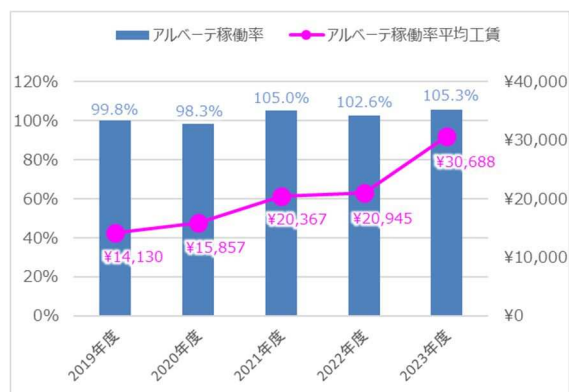
障害のある人が就労を通じて、自立かつ充実した社会生活を送られるよう、その人の状況や特性に応じた職業適性を見出し、職場探しや定着の支援などを実践してきました。結果、この5年間で35名の障害者に就労支援を提供しました。グラフに示しているように、35名のうち24名（68.5%）が一般就労に繋がり、繋がった24名の83.3%が6カ月以上の職場定着が果たせています。就労先の労働環境や業務内容に順応し、長く働き続けられる支援が提供できていると思われま

す。課題として、利用期間が2年という有期事業であり、常に利用者確保を意識した運営が求められます。高知市内には移行支援事業所がハビリを入れて7か所存在します。どの事業所も利用者獲得に苦戦している状況にあり、利用者確保対策が急務と考えています。次年度からハビリの環境を生かした高次脳機能障害特化型の就労移行支援に舵を切り、再就職だけではなく復職の支援を視野に入れた事業展開を考えています。



【アルベータ就労継続支援 B 型】

B 型事業所には「利用者の居場所になる」「工賃を上げるため頑張る」「就労支援の本分を全うする」といった運営の仕方があります。ハビリの 2018 年度は居場所を求める利用者と工賃向上を希望される利用者が混在し、障害特性の配慮ができておらず、利用者トラブルや通所中断などが頻発していました。職員と議論を重ねハビリが目指す B 型就労のあり方を検討し「働く・稼ぐ喜びを利用者と共に味わう」工賃向上を目指すアルベータに軌道修正しました。2020 年には定員を 50 人から 40 人へ変更し、就労支援が手厚く提供できる体制を作りました。入退所の波は大きくありましたが、現在 66 名が登録されています。右のグラフにも示していますが、一旦落ちた稼働率も回復し安定した運営ができています。身体・知的・精神・高次脳機能障害など多様な障害に対して現在約 110 社（個人取引含）との取引をしながら、障害特性及び一人ひとりに合った仕事環境を提供し、稼ぐ喜びを感じていただいています。結果、平均工賃も右肩上がりに向上し 2023 年度平均工賃が 30,688 円を達成することができています。

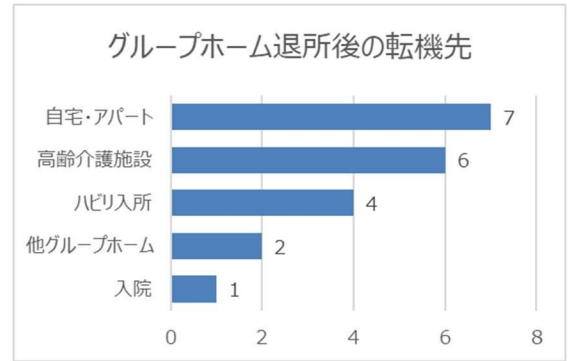


【はるのハビリホーム】

慢性的な人手不足が課題であったはるのハビリホームでは、2021 年 4 月より入浴等の介護を外部業者に委託する「外部サービス利用型＝支援費単価約 210 単位」に変更し 3 年間運営してまいりました。この間に、業務・賃金の見直しや職員採用などをすすめ外部サービスに頼らなくても支援が可能となる体制を作ることができ、類型変更前の「介護サービス包括型＝支援費単価約 290 単位」にもどす予定となりました。さらに、障害者総合支援法の基本理念である障害者の希望を前提に地域生活を推進する観点から、地域での多様な住まいの暮らしを選択できるよう、障害特性や障害程度を踏まえた適切な運営

を心掛けてまいりました。

結果、右のグラフに示す通りこの5年間で20名の利用者を地域に送り出すことができました。なかでも、一般就労され自宅やアパート生活に移行された方が7名と、ハビリが目指す通過型グループホームとしての機能を果たしていると考えます。



【キュール】

放課後等デイサービスは2012年4月より制度化されハビリにおいても翌2013年4月より「キュール」を開所しました。当初は放課後デイサービスを運営する事業所も数える程で、定員数が1日10名であるにも関わらず初年度登録児童は58名、2017年度には89名にも上りました。キュールに通う児童は小学1年生から高校3年生までと幅広く、個別支援はもちろん広大な敷地・中庭での虫取り遊びや、隣接する障害者スポーツセンターを利用してプール・運動遊び、長期休業日には県内の様々なスポットや公共交通機関を利用しての外出訓練等、スウェーデン語で「楽しむ」という意味を持つ事業所名に負けない活動を大切に取り組んできました。現在では放課後デイサービスは市内に約70事業所あり、多種多様な支援が選択できるようになりました。このような変化が生じるなかで「ハビリが担うべき役割と果たすべき責務とは何か・・・」を検討する時期にきており、沢山の話し合いの末2024年3月31日をもって11年間の活動に終止符を打つことにしました。2023年度の登録児童23名は継続した支援が受けられるように代替サービスを調整し終了しました。

【相談支援事業所】

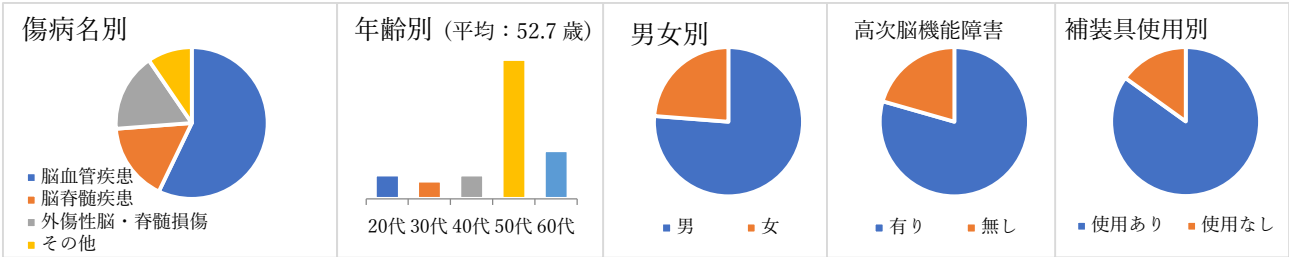
2022年3月31日から休止となっています本事業の再開を目指して取り組んで参りましたが、人員不足を解消するには至らず2024年3月31日付で廃止といたします。

事業の詳細な利用状況や取り組み内容については、事業毎に報告書を作成し後方に添付しております。また、9の委員会の活動実績と事故報告及び、ご意見・苦情に関するもまとめておりますので、ご参照ください。

機能訓練

■2023 年度平均稼働率：105.2% 一日平均利用者数：21.0 名

■2023 年度利用者状況（登録者 42 名）



利用終了者（20 名（うち通所者 3 名））

転帰先(生活拠点) 17名		転帰先(日中活動) 20名		施設外支援（年度のべ件数 85 件）			
自宅復帰	6	一般就労・復職	2	家屋訪問調査	16 件	就労移行見学・実習	7 件
グループホーム	6	福祉就労(A型・B型)	6	住宅改修支援	34 件	A 型・B 型見学・実習	11 件
当センター施設入所	1	家事・趣味活動	3	補装具作成支援	2 件	公共交通利用支援	4 件
障害者支援施設	3	デイサービス	1	職場訪問調査	4 件	自動車運転支援	7 件
病院（入院）	1	生活介護	6	訪問機能訓練	7 件		
		その他	2				

利用者は 50 代の男性が多く、疾患では脳血管疾患が 6 割を占め、車椅子・装具等の補装具の利用者は約 8 割、高次脳機能障害の併存者は約 8 割と、身体機能と高次脳機能両面での支援を要する方が多数を占めています。加えて、鬱病、アルコール依存関連症、不安障害、解離性障害、転換性障害など、精神疾患を併せ持つ利用者も全体の 14%と、疾患層の広がりが見られました。様々な疾患・特性を持つ利用者にも多様な対応が求められる中ではありましたが、専門職 2 名の増員により、装具・車椅子の作成や訪問支援など施設外に出向いた個別支援にも力を注ぐことができました。利用終了者 20 名のうち 7 名において、生活場所・日中活動の選択肢としてハビリ内の他事業の見学・体験を行い、うち 5 名が生活介護・B 型、ハビリホームの利用へ繋がりました。

■新規利用者数：計 22 名（施設入所 18 名、通所者 4 名）

22 名中 16 名（7 割）が近森リハビリテーション病院からの紹介で大半を占め、残り 6 名のうち 2 名は昨年度に利用につながった紹介元からの紹介でした。

問い合わせ総件数は過去 3 年間、年間 40 件台と大差がないものの、近森リハビリテーション病院からの紹介は年々増えており、今年度は全体問い合わせ数の約 4 割を占めさらに利用につながったケースは 6 割を超える高い定着率となりました（今年度の全相談件数に対する利用定着率は 4 割弱）。これは、近森リハビリテーション病院の当施設・事業の役割の理解が深まり、利用者・家族への動機づけも含めて支援して頂いている背景があると考えます。利用終了者の経過を紹介元に報告し、事業の機能を広く知っていただく必要性を改めて感じました。

■2023 年度の事業目標達成度を評価 『支援内容の充実と地域に「繋げる」支援へ！』

■タイムリーに情報を共有し、支援計画に結び付ける

利用者の目標や利用者が抱くこれからの生活イメージの変化などを、日頃の関わりやモニタリングでキャッチし、週に一度の部会等でスタッフ間の共有を図り、支援 4 面に結び付けました。また、利用者の想いや能力を生かせる生活場所・日中活動について、利用者とともに考え、必要なタイミングで自宅／施設訪問や住環境調整、職場体験、事業所の見学・体験などを行いました。

■評価と生活目標に基づいたプログラムを立案する

機能評価・能力評価と生活の場での活動評価を行い、“利用者の力を生活へ生かしていくこと”を意識して支援を行いました。在宅復帰や一人暮らし、復職などに繋げていく際には、関係機関との密な情報交換を行い、また、退所後の生活を見据えて、装具の見直しや補装具作成などにも関わりました。日々の取り組みの中で、利用者同士が情報交換し、悩みを打ち明け、声を掛け合われる場面にたびたび出会い、支援者の力でなく、利用者同士が生み出す“力”の大きさもまた感じる事ができました。ハビリの人・環境を生かした支援の方法を今後も模索していきたいと考えています。

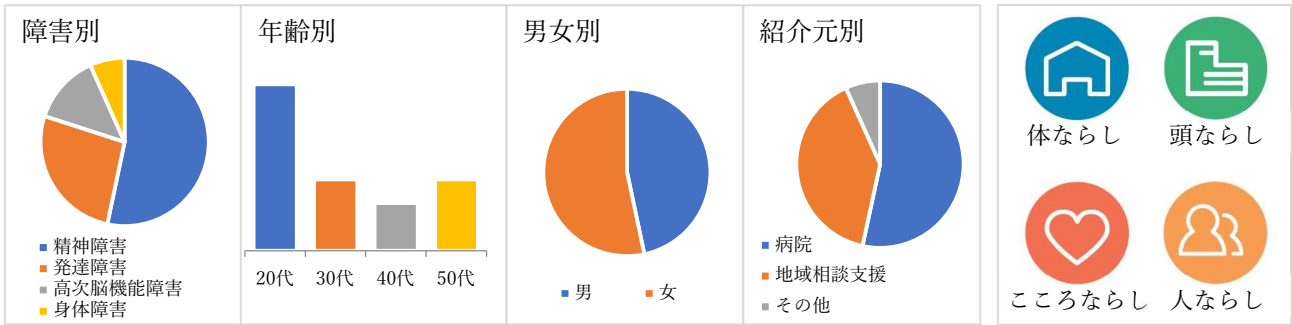
■機能訓練の役割や成果を地域に伝えることができる

利用者の日々の取り組みの成果をまとめ、利用前に入院されていた病院に訪問・報告を行いました。ここ数年の地道な営業活動により、機能訓練の役割を知っていただけた病院・学校・施設など広がりを見せ、今年度の稼働率は昨年度を上回り、ついに目標の 100%を達成することができました。

生活訓練

■2023 年度平均稼働率 75.7% 一日平均利用者数 7.6 名

■2023 年度利用者状況（登録者数 15 名）



身体機能が自立している精神障害者が医療機関退院後に利用されるケースが多く、精神障害の中でも発達障害者の利用が増加しています。加えて身体機能が自立している高次脳機能障害者の利用も増加しています。年齢は20代が約半数を占め、若い男性が多いのが特徴です。4つの「ならし」を軸に様々なプログラムを提供し、社会生活力の向上と評価に努めた結果、利用者個々の障害に合わせた次の生活ステージに繋ぐことが出来ました。

■新規利用者（7名）の傾向

本年度の新規相談13名のうち新規利用に至ったのは1名（もう1名は当センター機能訓練利用開始）で、昨年度から相談を開始しているケースは2名、他事業からの紹介が4名でした。相談ケースは昨年度（14名）とほぼ横ばいでしたが、施設内の他事業からの紹介により、体験を経て利用に繋がったケースが多いのが特徴で、生活訓練を経由しステップアップを図った方が、利用者にとって効果的であることを評価していただき、新規利用者の増加に繋がりました。今年度も、相談の約7割が精神・知的・発達障害のいずれかを持つ方です。相談からすぐに利用開始に繋がるケースは少ないですが、来年度早々には1名が利用開始予定となっております。

■利用終了者（5名）の転帰

	住む場所	日中活動
利用者1・2	グループホーム	就労継続支援B型
利用者3	グループホーム	就労移行
利用者4	自宅	就労継続支援B型
利用者5	入院（精神症状悪化）	

■2023年度の事業目標達成度を評価 『社会生活力の向上と評価』に努めます

■利用者自身が課題や目標を自覚し取り組む

利用者個人の課題や目標を入所スタッフと共有し、個別での対応に加え、集団を活用したグループワークなどに落とし込み、自分の課題に対して気づきを得る機会を増やしてきました。障害特性に応じた利用時間の調整、作業活動やアートワークを通じた評価、支援も行いました。また、問題対処方法（クライシスプラン）を利用者と共に考えスムーズなステップアップに繋げることができました。さらに、今年度は高次脳機能障害の利用者受け入れもあり、障害に特化した評価、訓練にも力を入れました。定期的な部会におけるケース検討も実施し、関連機関と連携を図りながら適切な支援を提供できるように取り組みました。

■地域生活を想定した様々なチャレンジ

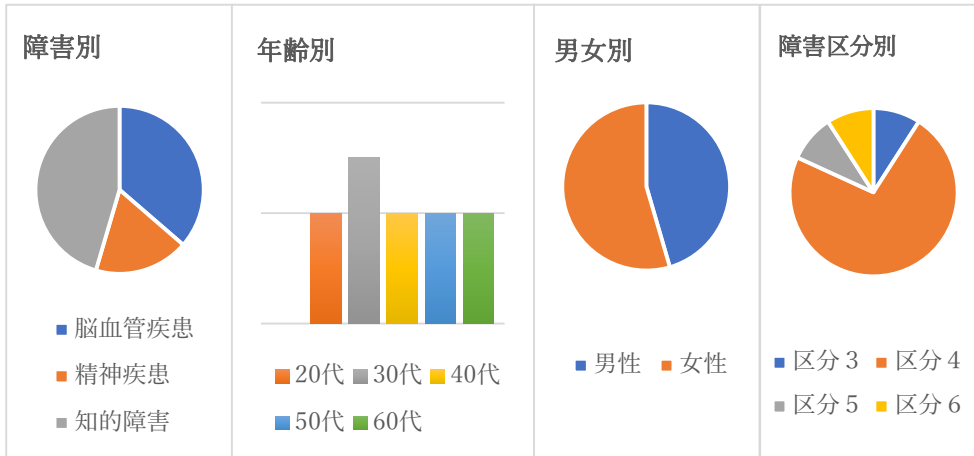
公共交通機関の利用を始め、受診や買い物同行などを行い、その人の困りごとや課題を評価し安心して活動できるように支援してきました。また、生活場面においても居室の片付け、掃除、入浴、シーツ交換なども入所と協力しながら評価、支援し自立へ繋げることができました。その他生活訓練全体では、イオンへの外出訓練を行う機会があり、計画段階から楽しみながら活動することができました。

■新規利用者の獲得に向けた取り組み

見学、体験利用の受け入れの増加に加え、体験時のお試しプログラムも準備し、生活訓練利用のイメージを持ちやすくする工夫も行いました。その他、特別支援学校、地域移行を見据える精神科、身体障害の無い高次脳機能障害の方など、地域回復期病院への営業活動を積極的に行い、利用へと繋げました。

■2023 年度平均稼働率：97% 一日平均利用者：10.6 名

■2023 年度利用者状況（施設入所併用 11 名）



新規利用者獲得にて稼働率アップにつながった1年でした。障害特性がそれぞれに異なる利用者ではありますが、個別プログラクを作成、季節ごとのちぎり絵や作品作りを楽しまれながら活動されました。職員もそれぞれの利用者の特性を活かしながらオーダーメイド支援に取り組んだ1年でした。

■2023 年度の事業目標達成度を評価 毎日の『日中活動が充実できる』

■プログラムの可視化

1 週間のスケジュールをカラーでわかりやすく個別に作成。利用者に内容がわかりやすく、居室にも視覚支援を行うことで、活動内容の定着に努めました。どの職員が対応しても内容が把握できるように個人のプログラムケースも扱いやすいもの新しく交換しました。

機能訓練プログラムも実践し、5 名の方が体力向上プログラムを実施できております。

■健康管理

毎日のバイタル測定・検温実施・体重管理を実施。

発熱時に居室対応が難しい利用者に対しては、ご家族の協力のもと、自宅療養をお願いいたしました。ご協力のおかげで、施設感染が増加することなく終息することに努めることができました。

■イベント・イベント食・秋祭り・盲導犬見学・年末助け合い基金活用

コロナ終息にともない、少しずつではありますが、イベントも実施いたしました。

利用者が落ち着いてイベントに参加できるよう、前もって家族には報告行い、当日は家族参加されたことで安心・安全にイベントを楽しむことができました。また順番を守ることや相手も思いやることを学びながら参加できたと感じられました。カラオケ大会・ビンゴゲーム大会などそれぞれ個性が発揮され楽しくことができました。

■総括

利用登録数も増加し稼働率アップが出来た一年でした。障害特性の違う利用者が個々に集まることで、利用者の人数が増えると少し落ち着きがなくなってしまうと思われましたが、訓練時の座席の配置・個別のプログラム見直し・機能訓練プログラム実践にて安心・安全に活動を行うことが出来ていると実感した一年でした。来年度はさらに、利用登録者数を増加変更する予定であり、新規利用者獲得・活動内容の充実をさらに検討していきたいです。

障害者支援施設 施設入所

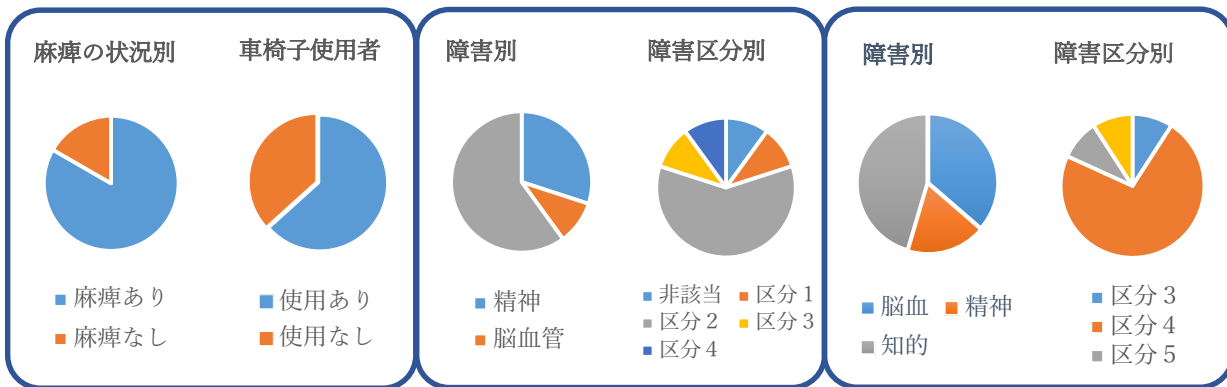
■2023 年度平均稼働率：83.4% 一日平均利用者数：35.8 名

■2023 年度利用状況

機能訓練（登録者 30 名）

生活訓練（登録者 10 名）

生活介護（登録者 11 名）



■体験の進化

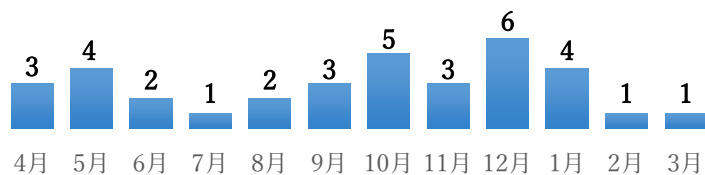
◆体験利用者数アップ

（昨年体験利用者 25 名）

◆複数の日中事業を体験

よりよい利用へ繋がる

体験利用者数（人）



■2023 年度事業目標達成度を評価

『自己実現』を支援できる事業所へ

■利用者の自己実現を支援できる

入所後は利用者の持つ可能性を評価し共有することを意識しました。移乗動作・装具装着動作の獲得・クッションのあて方など入所スタッフは訓練部指導にて技術を学び、夜間帯の指導対応を実施。一人一人の生活能力アップが実感できる支援体制が出来つつあります。また受診後処方箋を持ち帰りエール薬局に F A X するのみでお薬が施設に届くシステムを導入。利用者受診時間の短縮・看護業務の改善を実施。

■利用者の未来を一緒に考え叶える

施設見学同行（2 件）・自宅訪問（4 件）・病院受診同行（4 件）など利用者自身が発信された思いをもとに、柔軟に対応できたと感じております。今後経験が少ない施設入所職員でも、受診や施設見学同行などで学ぶ機会が出来るような体制をしっかりと作り上げていきたいです。

■E S（従業員満足度）が向上する empurloyeesatisfaction

県外施設職員との意見交換会やハピリ施設見学対応など実施。よりよい刺激になり自分達の支援は間違っていなかったこと、新しい学びが発見できました。職員のライフスタイルに合わせた休暇制度活用は、入所職員で話し合い柔軟に協力ができ、日々乗り越えてきたことが一番できた部署だと感じております。今後も職員全員の満足がアップする職場環境を目指していきます。

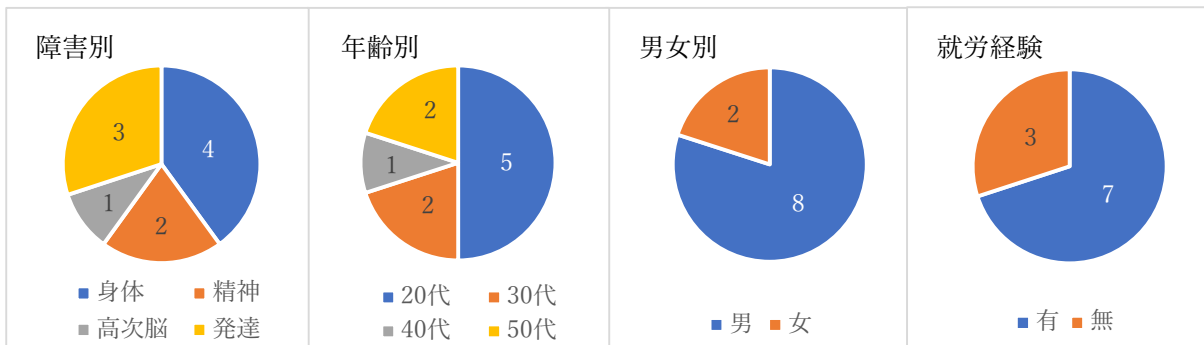
■総括

今年度は触法行為により矯正施設入所中の方の新規入所の受入れからはじまり、職員側は、病態や制度を学びその利用者を理解することで、職員全員が柔軟に対応、関係機関の協力もあり、本人が望む生活スタイルに送り出すことができました。知的・身体重複障害を持つ利用者も同様に 1 年半を無事終えようとしております。本人の望む生活に向け現在調整中です。入所後大変苦労した事例ではありましたが、職員側も学びながらその都度対応を実践することで支援に自信が持てるようになってきていると感じております。

この経験を活かし今後も充実できるような支援に取り組むよう努めていきます。

就労移行支援

■2023 年度利用者状況（延べ登録者数 10 名）※就労アセスメント 4 名は除く



今年度は年間を通じた登録者が 10 名と昨年度の 15 名に比べ減少しました。利用者は精神・発達の方がやや多く、また若い傾向にあったことから、動作面もさることながら対人面での支援を必要としたケースが多かったと思われます。就労経験のない方のみならず、ある方も未経験の業種に挑戦し、実習等を通して適性を確認しながら訓練及び就職を進めてまいりました。

■利用終了者

- ・一般就労：3 名（2024/4/1 就職予定：1 名）
- ・その他：2 名（ハビリの B 型：1 名、自宅：1 名）

就職先	業務内容	就職日
パーソルダイバース	事務	2023/10/1
富士産業	調理補助	2023/11/1
四国部品	事務補助	2024/3/4
安芸市役所	事務補助	2024/4/1

■2023 年度の事業目標達成度を評価

- 気にする 一人一人に丁寧に関わることが出来た
- 評価する 実習等を通して職業適性を見出した
- 業務を見直す 訓練プログラムや会議頻度等の見直しを行った

■総括

稼働率は年度のはじめから 70%を下回り、その後も就職等で利用者が減少し、30%台にまで低下しました。他事業から紹介して頂く等して見学や体験を行ったケースもありましたが、利用には至らず、稼働率は低調に推移しました。この為、体験時にはその方に合ったスケジュールを皆で検討し、より訓練の意義を感じて頂けるように改善しました。また、ワンモア豊中の金川氏にお越し頂き、利用者に対する支援の在り方と、利用者獲得の方策等についてアドバイスを頂きました。

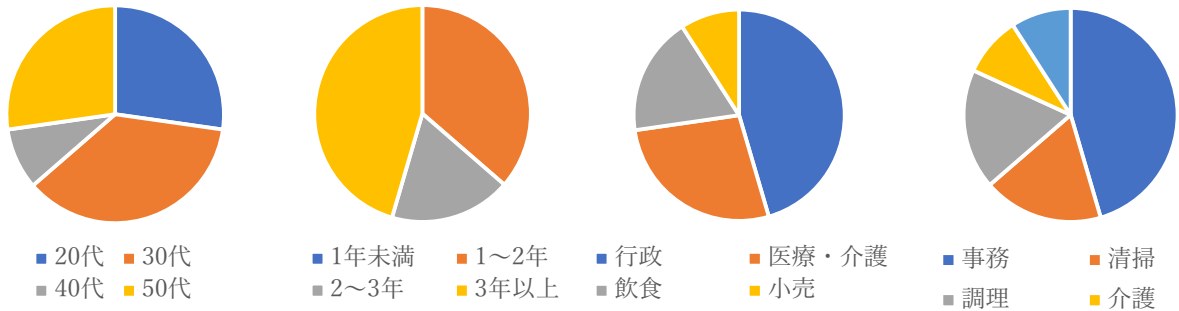
一方では、利用者が少なかったことで、一人一人に向き合う時間が増え、より丁寧に接することが出来ました。また、利用者が外部での実習を行い、豊富な経験を得られるように就労体験拠点設置事業を利用する等、今年は昨年に比べ能動的に制度を利用することが出来ました。

その他、訓練においてはこれまでのプログラムを大きく見直しました。事務系を目指す方と立位の多い作業系を目指す方で作業内容を大きく分け、それぞれの目的に合った訓練に変更しました。また、DM 作業の縮小や移行通信の終了により、断続的に全体で行う訓練が減り、計画的に個別課題に臨めるようになりました。また、はるの若菜荘でのシーツ交換を行い、外部での活動を通して社会経験を積めるようになりました。

以上の通り、支援と利用者獲得の体制を整えており、来年度は利用者にとって価値のあるサービスを提供すると共に、稼働率の回復を目指したいと考えております。

就労定着支援

■2023 年度利用者状況（延べ登録者数 11 名）



中途退職される方もおらず、約半数は3年以上就労されています。途中、事故で休職された方が2名おられましたが、医療や職場と連携し無事復職することが出来たことも、長期就労に寄与していると考えられます。また、勤務先としては事務や調理等、自身の希望する業務に実習を経て就いたことが、前向きに継続して就労することが出来ている要因であると思われま

■新規利用者：2名

就職先	業務内容	就職日	定着開始日
ローソン高知	事務補助	2022/10/16	2023/4/16
土佐市役所（会計年度任用職員）	事務補助	2023/1/10	2023/7/10

■利用終了者：4名

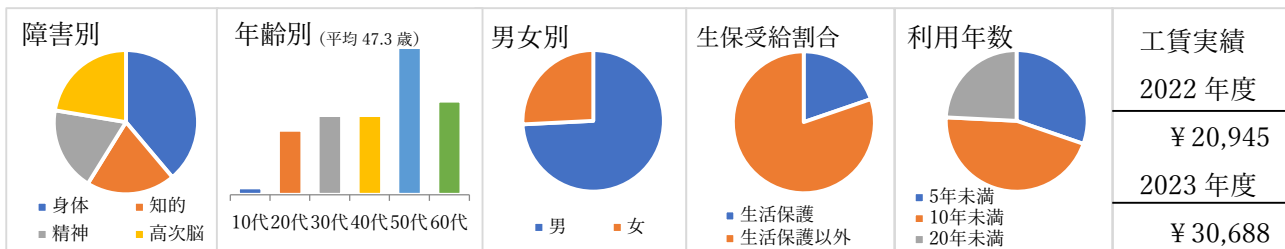
就職先	業務内容	就職日	定着終了日
高知総合リハビリテーション病院	設備管理	2019/12/1	2023/ 5/31（満期）
潮江高橋病院	清掃	2020/ 6/1	2023/11/30（満期）
永井病院	調理補助	2020/10/1	2024/ 3/31（満期）

■総括

支援を受けられた方はいずれも継続して就労出来ており、3年間のサービス終了を迎えた方も引き続き勤務出来ています。また、昨年から満期でサービスを終了される方がおり、その後も支援を受け続けられるように、他機関への引継等についても経験を重ねてきたことで手順を確立しつつあります。一方で、心身の不調により支援員が手厚く支援をした結果、職場との関係性が十分に築けていないケースもあります。その為、利用終了に向け、職場の上長以外にも職場における相談先を設ける等して、働き続けられる環境を計画的に構築して参りたいと考えています。

また、体調や生活リズムが安定していないこと等から休みが続くこともあり、就職前の就労移行における支援の重要性を感じた一年でもありました。就職時には十分な準備性を以て就職出来るように就労移行での訓練を充実させると共に実習等を通して適性を図り、就労定着では具体的な職場での課題等を解決していけるように支援をしていく必要があると考えられます。

■2023 年度利用者状況を可視化（登録者 66 名）



利用者の層に大きな変化はなく、多くの利用者が安定的に通所されました。2023 年度は特別支援学校からの問い合わせが多くあり、体験や実習を積極的に引き受け、職員で実習送迎を行い、実習中の様子を紙面でまとめて実習生へお渡しをするなど丁寧な個別対応を心掛けてきました。今後も新規利用者獲得へ繋げていけるような迅速かつ丁寧な対応を継続します。

■紹介元（新規相談：28 名、内利用に至った方：6 名）

医療機関：2 名 特定相談：4 名 特別支援学校：9 名 市町村：2 名
 当事者家族：1 名 当事者：1 名 他施設：1 名 ハローワーク：1 名
 当センター他事業（自立）：2 名（生訓）：3 名（生介）：1 名（就労移行）：1 名

■新規利用者の傾向

5 名は当施設の他事業からの移行、1 名は特別支援学校の実習を経て利用開始となりました。

■利用終了者（4 名）

自宅：3 名 他施設：1 名

■月額平均工賃アップへの道のり

2021 年度の計画で、3 年間で月額平均工賃を 15,000 円から 20,000 円以上へという計画をたて、基本工賃の見直し（100 円→150 円）、工賃評価表を用いた評価を半年に 1 回行い、1 年で目標達成できました。2023 年度は報酬改定があり計算方式が変わったため、月額平均工賃は 30,688 円となり、前年度比 9,743 円と大幅増額となっています。2024 年度は工賃向上 3 年計画改正の年となります。月額平均工賃を 3 年間で 33,000 円へという目標を掲げ、利用者とともに目指していきます。

■2023 年度の事業目標達成度を評価 『新たな体制・支援・チャレンジ』に取り組むチームへ！

■しごと化

利用者の特性と作業特性の見直しで適材適所の配置ができた。
 見える化、役割、手順を明確にし、作業環境の改善を行った。

■しゅたい化

職員 3 名の入院、3 名の退職など人員不足の時期があったが、助け合い高めあうことが出来た。
 個別支援を実施した結果、4 か月以上利用ができていなかった利用者が作業再開となった。

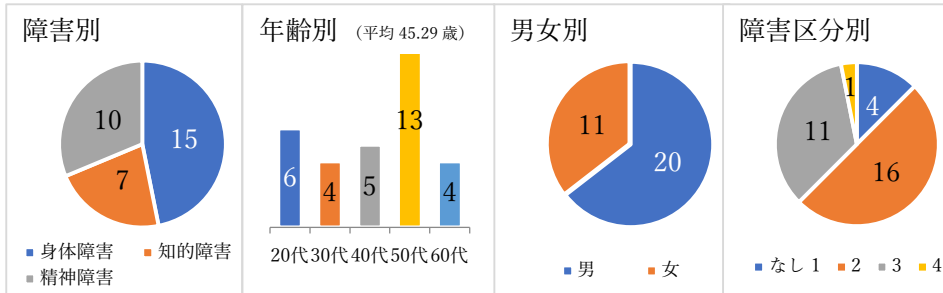
■しゅうえき化

取引業者から仕事に対する評価として 15 万円の寄付をいただいた。
 近森病院のクリーニング単価見直しにより 1 カ月で 28 万の増収
 2023 年度就労支援収入 39,601,731 円（前年度比+3,878,934 円）
 2023 年度月額平均工賃 30,688 円（前年度比+9,743 円）
 2023 年度作業収入 10,560,484 円（前年度比+2,113,428 円）

■総括

今年度は、新規作業の獲得、単価交渉などを行い、事業収入を高めることが出来ました。そのことから、利用者とともに作業の達成感を味わい、働くことの喜びを分かち合うことができました。

■2023 年度利用者状況を可視化（登録者数 32 名）



新規相談元 (26 件)

特定相談	11
市町村	2
ハビリ (生活訓練)	1
ハビリ (機能訓練)	5
家族	2
医療機関	1
特別支援学校	3
本人	1

新規利用者 (4 名)

	障害別	年齢	性別	紹介元	日中活動
1	知的	47	男	ハビリ(生活訓練)	B 型
2	精神	28	女	ハビリ(生活訓練)	就労移行
3	精神	58	男	ハビリ(機能訓練)	B 型
4	身体	59	男	ハビリ(機能訓練)	B 型
5	精神	33	男	ハビリ(生活訓練)	B 型

利用終了者 (3 名)

	障害別	年齢	性別	転居先
1	身体	64	男	有料老人ホーム
2	身体	23	男	自宅
3	身体	21	男	自宅

新規相談件数 26 件に対して新規利用者は 4 名でした。特定相談からの相談件数が多いものの新規利用につながったケースはすべて当施設他事業の利用者でした。その背景には、施設内の他事業から途切れない支援を実施し利用者の安心をつなぐ、受け入れる側としても利用者をより深く知ることができ、受け入れ態勢の準備もタイムリーに行うことができました。横のつながりの強化ができたと考えています。

■2023 年度の事業目標達成度を評価 目標や喜びを共有し、『その人らしい生活を』を大事に！！

■情報の共有

日々の特記事項を日誌に記載する事を徹底し少しずつではあるも共有の形ができ始めました。しかし、抜かりもあり、来年度もこの情報共有は課題の一つとして取り組み、利用者・職員の動きを可視化する仕組みを作り上げていきます。

■希望の共有

利用者のニーズを聞き取るため毎月のユニット会を実施していきました。ユニット会はマンションタイプ、ユニットタイプ 1 階・2 階の利用者を 3 部制で実施してきました。なかなか、利用者からの発信はなく職員からの伝達がメインとなっていました。ユニット会のあり方についても見直しを行い、個別的に時間を設けるシステムを構築しより利用者のニーズを聞き取れる場の設定を検討していきたいと考えています。

■喜びの共有

感染症対策で実施できていなかった忘年会を実施することができ、利用者の弾ける笑顔を見ることができました。職員・利用者の関係ではなくグループホームという一家族のような関わりができるようによりよい関係性の構築ができるようにしていきます。

■総括

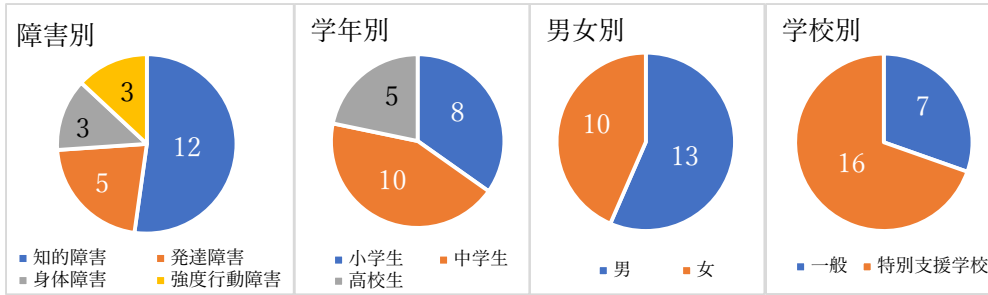
目標として掲げていた満床については今年度で達成することはできなかったものの、新規利用者の受け入れ態勢としては他事業との横のつながりの強化が構築できたと考えています。これまでに構築した他事業の関わりを継続しつつ、より丁寧に受け入れ態勢を整え、新規利用者の安心安全を担保したいと考えています。そして、個々の目標に向かった新たな取り組みができるよう支援をしていきます。

放課後等デイサービスキュール

■2023 年度稼働率：58% 1 日平均利用者数：5.7 名

■2023 年度利用者状況 登録者数：23 名

利用終了者 移行先



他事業所	16
地域・学校での活動	3
希望なし	3
未定	1

今年度は7月からの営業時間の変更、年度末での廃止が決定し、移行の保護者、関係機関への説明と協力。引継ぎ等の対応を丁寧に行いました。夏休みが終わる8月末には4名の児童が契約終了になるなど、支援と移行を同時並行で進めなければならない大変さもありましたが、安全第一をモットーに実行することができました。キュールでの思い出作りをしながら日々の支援を大切に、全児童が少しでも笑顔でスムーズに次の生活環境に移行できるように努める中、最後まで笑顔と感謝を児童や家族からいただくことができています。また、全児童の移行先についても概ね目処がついています。



■2023 年度の事業目標達成度を評価 保護者と支援者、みんなで繋がり

『子どもの成長』を目指します！！

■結団:チームワーク

今年度は6月に今年度内での事業廃止が決定。児発管の交代、職員の異動、パート職員の退職や異動、アルバイト職員の契約終了などキュール内での様々な変化が生じる中、児童の支援を継続するために対応を余儀なくされた。その中で協力体制が構築された部分もあるが、基盤は不安定であり、細かな確認やチェック体制を築く必要があるなど、安定感を保つことは困難であった。

■統一:支援の統一

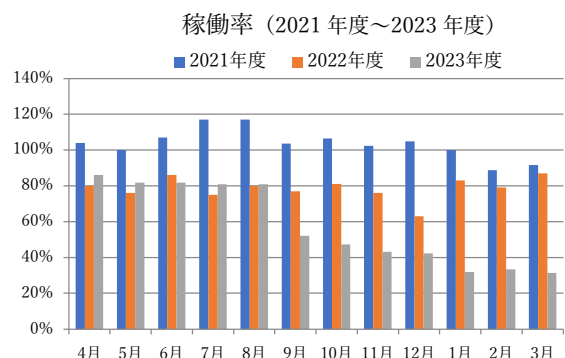
「キュール=楽しむ」については学校休業日も含めて、多くの機会を提供し、児童や保護者にとっても喜ばれていた。ただし、小学1年生から高校2年生と年齢の幅や特性が大きくまた、異なる児童に対して、個々の今後につながる関わりは未達成であったと自己評価する。また、他事業所を併用する児童においては家庭や学校含めた連携をより充実する必要性があった。現場支援者にとっては窮屈だったと思うが、安全という点についてはこれまで以上に敷居を高くすることで、一定の統一を図ることができた。

■信頼:信頼関係の構築

一部の保護者との関係において管理者との溝は大きく、解消は困難であった。しかし、支援員がそれぞれ担当を持ち、担当者会に出席する等、各々が外部との情報交換を行う機会は多く持つことができた。

■総括

2013年に開所したキュールの幕を閉じることが決定した2023年。社会的背景も相まって事業所は乱立すると共に特色や専門性も求められてきており、法人における児童支援のあり方が問われる中、決断を余儀なくされた。今後関わった児童が18歳を迎える際にファミリーユ高知が選択肢の1つとなる等今回の判断が結果的に明るいものになるように、これまでの経験を糧に前向きに歩んでいかなければならないと強く思う。



安全衛生委員会の取り組み

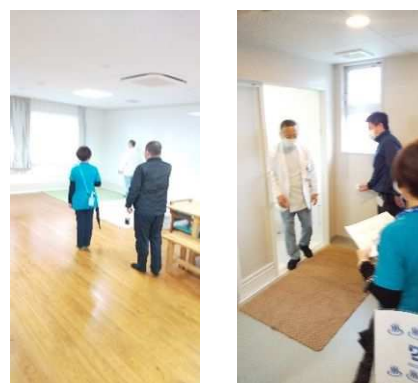
■総括

毎月の安全衛生巡視においてご指導を頂き、労働環境等を改善することが出来ました。また、職員一人一人も指摘箇所の改善等を通して、日頃見落としがちな空調フィルターや網戸等の汚れについても清潔な状態を保つ習慣が身に付き、安全や衛生への意識を高めることが出来たと考えられます。

■安全衛生委員会

	実施日
第 1 回	2023 年 4 月 20 日
第 2 回	2023 年 5 月 18 日
第 3 回	2023 年 6 月 15 日
第 4 回	2023 年 7 月 21 日
第 5 回	2023 年 8 月 22 日
第 6 回	2023 年 9 月 21 日
第 7 回	2023 年 10 月 19 日
第 8 回	2023 年 11 月 9 日
第 9 回	2023 年 12 月 28 日
第 10 回	2024 年 1 月 18 日
第 11 回	2024 年 2 月 15 日
第 12 回	2024 年 3 月 21 日

巡視の様子



- ・実施内容
 - ・職員の健康状況（感染症・メンタルヘルス含む）を報告し必要に応じて助言を頂いた
 - ・前回指摘事項に対する改善状況を報告
 - ・安全衛生に関する資料や情報提供
 - ・施設内巡視

■職員・職員家族 体調不良者状況

	非感染症	外傷	労災	その他
4月	5	0	0	0
5月	2	0	0	0
6月	3	0	0	2（乳がん・直腸がん）
7月	0	0	1	2（頸部ヘルニア・ぎっくり腰）
8月	0	0	↓	2（高血圧ふらつき・左趾のつり痺れ）
9月	4	0		1
10月	2	0	↓	0
11月	1	0		1（腎盂腎炎）
12月	4	0	↓	0
1月	3	0		2（副鼻腔炎・眩暈）
2月	5	0	↓	0
3月	7	0	0	0
合計	36	0	2	10

※感染症は感染対策委員会資料をご参照下さい。

2024 年度へ

- ・毎日の体調確認と感染対策を行い、利用者・職員ともに健康を維持し事業運営を行います。
- ・安全衛生委員会を定期的開催し、必要に応じて改善を行うことで作業環境の整備に努めます。

感染対策委員会の取り組み

■総括

2023年度は新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行となりました。就労継続支援B型ではクラスターとなりましたが、感染症が発生した際にも職員が適切に対応できるよう、感染に関連するシステムやマニュアルの作成と修正を行い、拡大することなく終息することが出来ました。施設入所で2名の新型コロナウイルス感染症が発症しましたが、初動の対応が的確・迅速にできており、感染拡大は認めませんでした。新型コロナウイルスは5類感染症に移行になりましたが、インフルエンザウイルス、アデノウイルス、今までにない流行を見せており、感染対策の基本は継続し、統一した感染防止対策が実践できるよう標準予防策の教育と啓発を行いました。

■実施状況

	委員会開催日	職員研修
第1回	2023年4月27日	4/26 新採用職員研修
第2回	2023年5月25日	5/17 職員研修 キュール
第3回	2023年6月22日	6/15 職員研修 法人本部 6/26 職員研修 B型・自立訓練
第4回	2023年7月27日	
第5回	2023年8月24日	8/3 新採用職員研修
第6回	2023年9月22日	
第7回	2023年10月27日	
第8回	2023年11月23日	11/21～12/8 全職員対象に手洗いチェック 11/16 職員研修 入所
第9回	2023年12月8日	12/21 「施設内感染対策研修会」に感染委員2名参加
第10回	2024年1月26日	1/5 新採用職員研修 1/26 研修会の伝達講習
第11回	2024年2月22日	
第12回	2024年3月28日	
訓練	シュミレーション	ガウンテクニック 入所 吐物処理研修

■実施内容

- ①月1回（毎週第4木曜日）の感染対策委員会を開催。
- ②新型コロナウイルス感染対策の実施
 - ・感染症発生時はその都度臨時の感染委員会を開催し、情報の共有と対応についての協議を行った。
 - ・感染症発生状況に応じ職員のスクリーニングを実施。職員のスクリーニングを実施。
 - ・コロナウイルス陽性者発生時対応記録用紙・施設内での感染対策の目安の更新を行った。
- ③体調不良の職員・利用者への初動の対応の強化を行った。
- ④毎週更新される『高知県感染症発生動向の調査』を各事業の委員に資料を配布し、各事業で掲示を行い感染状況に注意意識を高めた。
- ⑤感染対策に関する意識の向上、知識・技術の向上を目的に、職員研修では「感染対策の基本」を各事業での机上での研修と、手洗いチェックや、ガウンテクニックを行った。

■感染症発生状況

	職員	施設入所	グループホーム	通所
新型コロナウイルス	18人	6人	2人	15人
インフルエンザウイルス	4人	0人	1人	1人

2024年度へ

- ・感染対策マニュアル/BCP マニュアルの見直しと実践可能な内容に改訂していきます。
- ・委員会での検討内容、決定事項が全職員へ周知徹底されることを目指します。
- ・感染委員の「感染に対する知識・技術の向上」に努めていきます
- ・障害者支援施設における医療機関との連携強化・感染症対応力の向上に努め、研修を計画します。

災害対策委員会の取り組み

■総括

2023年度は職員や利用者を対象とした防災関連の講習会を複数回実施でき、それぞれの防災意識向上に繋げることができた。定期的な委員会の開催も予定通り行い、防災訓練の計画や振り返りも十分できた。さらに、秋祭り実施に伴う防災ブースも予定通り設置でき好評を得ることができた。また、8月に発生した春野地区水道管破損に伴う断水に対しても、施設内の備蓄水の活用や外部への関係機関への連絡による給水車の依頼など現場職員が迅速な対応をとることができ、日々の訓練の成果が生かされた。

■避難及び防災訓練・講習会・連絡会

・実施状況

実施日	内容（対象）
2023年 6月29日（木）	水害訓練（利用者・職員） ・日中（日中想定）・グループホーム（夕方想定） ◆キュールは7月26日（水）実施（夕方想定）
7月25日（火）	春野町要支援者・児童・生徒地震避難対策連絡会（職員）
8月29日（火）	南海トラフ地震対策講習会（利用者・職員）
9月27日（火）	災害講習会（職員）
9月28日（木）	火災訓練（利用者・職員） ・施設入所（夜間想定）・日中（日中想定） ・グループホーム、キュール（夕方想定）
11月17日（金）	BLS研修（職員）
11月22日（水）	高知市防災対策講習会（利用者・職員）
2024年 3月14日（木）	地震火災訓練 ・施設入所（夜間想定） ・日中（日中想定）キュール含む ・グループホーム（夕方想定）

※三誠産業株式会社協力

■災害対策委員会

- ・実施回数：11回（2022年4月～2023年3月）
- ・実施内容：BCPの更新（5月、11月） 各避難誘導訓練・講習会の計画、実施、振り返り
備蓄品の提供と補充、防災研修

2024年度へ

- ・災害時に起こりうる状況を情報収集し、より実際の想定に近い形での避難訓練を計画、実施
- ・BCPの見直し、更新
- ・各委員の災害対策、予防についての知識を高める
- ・備蓄品を利用した炊き出しの実施
- ・行政や春野地域との情報交換を行い、災害時の役割を考える

虐待防止委員会の取り組み

■総括

2023年度は、自身の支援の振り返り及び“気づき”を深めることを目的として自己チェックシートのバージョンアップを行い、全職員対象に自己チェックを実施しました。

10月には高知県介護福祉士会の協力を得て法人全体での研修を開催し、事例を通してグループワークを行い、他事業職員との交流が持てた研修会を開催できたと思います。不参加者に対しても別日で研修会を企画し、全職員が受講完了しています。工夫として、パート雇用者同士のグループワークを実施したところ、これまで意見交換の場がなかったのが良かった等の意見もあったため、今後も雇用形態等考慮した上で、研修の企画・運営を行いたいと思います。

■虐待防止委員会

- ・毎月1回（第2木）開催。事例検討実施。内容により障害福祉課と連携を取り対応実施。
- ・臨時虐待防止委員会実施。（3回）

内容：①ホーム：7月、利用者から職員に虐待を受けていると報告があった件について

※行政へケースの相談及び支援者会を実施し対応。

②機能訓練：9月、職員からハラスメントを受けていると意見箱に投書があった

※高知市障がい福祉課に本人から通報と当施設からもケースの相談を実施。

12月14日に【心理的虐待】と認定。

今回の事例に対し施設での検討・対応も早く、また再発防止の期待がされていることが確認できた。今まで通りの支援で大丈夫です、とお言葉を頂いた。

③ホーム：11月、ご意見箱に世話人から不愉快な言葉がけを受けたと投書あり

※対象利用者・世話人から状況を確認。支給決定先(安芸市)に報告。対応としては問題ないが、本人が不快な思いをしているのは事実であり、寄り添う対応とこれまでの支援を継続するよう指導を受ける。

	実施日/訓練想定
新入社員への法令虐待研修	新規採用職員を対象に実施。 内容：法人虐待研修動画の視聴及び自己チェックシートの実施
社会福祉法人ファミーユ高知虐待防止研修	2023年10月21日 会場：春野文化ホールピアステージ小ホール 時間：14:00～16:00 外部講師：高知県介護福祉士会 溝渕 由記

2024年度へ

- ・虐待防止研修の内容を早期に準備企画し、全職員の更なる意識向上に向けての取組強化
- ・虐待防止マニュアルの定期的な見直し・改善
- ・委員会等の内容を全職員へ周知徹底

身体拘束適正化検討委員会の取り組み

■総括

2023年度は、自己チェックシートのバージョンアップを実施しました。自身の支援の振り返り及び“気づき”を深めることを目的として実施しました。これまで使用していた自己チェックシートの運用方法としては、新入職員への利用として使用することにしました。

10月には高知県介護福祉士会の協力を得て法人全体での研修を開催する事が出来ました。事例を通してグループワークを行い、他事業との交流もできよい研修会を開催できたと思います。不参加者に対しても別日でグループワークを行い全職員対象として実施できました。パート職員に対しても内容を変更してグループワークを実施し、これまで意見交換の場がなかったのが良かった等の意見もあり、今後も雇用形態や対象者を検討し、実に即したグループワークの検討ができればと考えます。

■身体拘束適正化検討委員会 実績

1	2023.4.3	臨時身体拘束適正化検討委員会(新規利用者身体拘束について)
2	4.13	身体拘束適正化検討委員会
3	5.11	身体拘束適正化検討委員会
4	5.26	臨時身体拘束適正化検討委員会(面会・通信制限のある利用者の相談事案)
5	6.5	臨時身体拘束適正化検討委員会(ベッドセンサーマットの交換の提案)
6	6.8	身体拘束適正化検討委員会(ベッドセンサーマットによる身体拘束終了)
7	7.6	身体拘束適正化検討委員会
8	8.10	身体拘束適正化検討委員会
9	9.14	身体拘束適正化検討委員会
10	10.12	身体拘束適正化検討委員会
11	10.23	臨時身体拘束適正化検討委員会(身体拘束帯を使用した拘束方法について)
12	10.30	臨時身体拘束適正化検討委員会(身体拘束帯を使用した拘束方法について)
13	11.16	身体拘束適正化検討委員会
14	11.22	臨時身体拘束適正化検討委員会(利用者家族より電話・面会制限の希望)
15	12.14	身体拘束適正化検討委員会
16	2024.1.11	身体拘束適正化検討委員会
17	1.29	臨時身体拘束適正化検討委員会(身体拘束解除に向けての検討)
18	2.8	身体拘束適正化検討委員会
19	3.14	身体拘束適正化検討委員会

■身体拘束の現状

1.キュール：送迎等乗車時の体幹ベルト装着。

※支援計画書にも身体拘束に関するプラン立案し対応。

2024年度へ

- 虐待防止研修の内容を早期に準備企画し、全職員の更なる意識向上に向けての取組強化
- 虐待防止マニュアルの定期的な見直し・改善
- 委員会等の内容を全職員へ周知徹底

ご意見・苦情

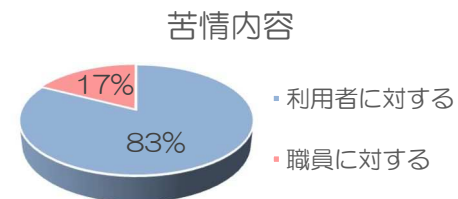
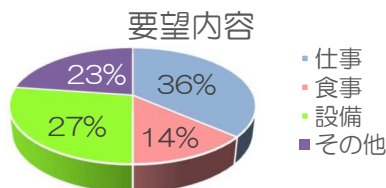
■総括

施設内 4 カ所にご意見箱を設置し、利用者の方々からの意見をまとめています。ご意見箱に投書された意見はサービス管理責任者が週に 1 度回収し、迅速に問題解決に取り組んでいます。昨年度に比べ、ご意見箱への投書は増加傾向にあり、昨年に引き続き分類が出来ない『不明』の内容が増えています。

昨年の要望内容は仕事内容や施設の整備についてのご意見があり、必要な対応を行いました。また苦情内容では職員に対する苦情の数は少ないものの、不適切な対応となっている恐れがありましたので、該当部署で職員への聞き取りを行い利用者さんへの適切な対応(説明・謝罪)を行いました。またご利用者に対する苦情も多く、個別に対応しています。ご意見として施設の環境や職員の対応へのお褒めの言葉もいただきました。今後もいただいたご意見をもとに検討を重ね、出来る限り要望に応え、利用者の満足につなげる取り組みを行います。

■ご意見箱の内訳

内容	要望	意見	不明	苦情	合計
2023 年度	22	20	75	23	140
2022 年度	19	3	58	24	104



苦情内容 (利用者に対する)

- ・ 特定の利用者の言動に対するもの (職員に対する)
- ・ 特定の支援員の声掛けに対するもの

要望例

- ・ B 型の職員を増やしてほしい
- ・ BBQ やお好みパーティなどの親睦会を希望
- ・ 朝食以外に汁物をつけてほしい
- ・ バイク置き場を増やしてほしい

上記以外に第三者委員の方への相談が 2 件ありました。1 件は昨年から引き続いているグループホーム利用の方の件で、ご本人に苦情内容についての説明をさせていただきました。お詫びについては「今は受けられない」とのお返事でしたが苦情内容の対応については終結という事でご理解いただきました。1 件は就労継続支援 B 型・グループホーム利用の方から不平、不満と思える手紙を職員が預かることが増え、内容の理解や本人の希望がわからず対応が難しいため、ご本人に第三者委員への相談を提案した所、ご本人も希望されましたので、第三者委員の方に相談となりました。ご本人の困っている事、希望する事を整理し、施設側の出来る支援を整理して提示することで、ご本人も納得され解決しました。

ご意見箱にあった苦情の職員の対応についての内 2 件は虐待委員会での検討となりました。直接職員に訴えにくい内容だからこそご意見箱を活用いただくものと思います。今後も定期的な回収・確認・対応を行い、適切な支援が提供できるよう各部署・委員会と連携していきます。

2024 年度へ

- ・ 苦情への迅速で適切な対応により利用者の満足度を高めることや、早急な虐待防止を講じ利用者の権利を守ります。
- ・ 苦情解決を密室化せず、社会や客観性を確保し、一定のルールに沿った方法で解決を進めます。
- ・ 利用者と職員との信頼関係を大切にし、要望や意見を直接お伺いできる関係づくりを行います。

教育委員会の取り組み

■総括

教育委員会が中心となって企画・実施している新人研修と成果発表会はここ数年の委員会活動の中で定着しており、今後も社会福祉法人全体の重要な教育計画であると考え継続していきたい。また、今年度に新たな取り組みとして実施した達人研修、マインドブラッシュアップの企画は事業間の連携促進や相互理解に繋がる企画であったと思われる。当センターにおいてその都度必要と思われる研修を今後も実施していきたい。

■実施内容 ※定例の委員会は毎月第2（火）に開催

①新卒採用職員および中途採用職員に対する新入職員研修の計画・実施

本年度は新卒採用職員2名、中途採用職員5名の合計7名に対する新入職員研修を計画・実施した。新入職者が各事業の支援内容を知ることはもとより、職員・ご利用者をお互いに知る機会となった。本年度は新入職員の配属先や職務経験を加味し、中途採用者であるが新卒者と同様の研修内容を実施する、ウェーブ職員2名が当センターの研修を実施するなどの目的に合わせた柔軟な研修プログラムを計画したことが特徴的であった。研修後には適材適所の配置に繋がっている。

②成果発表会の開催

昨年までに引き続いて第3回の成果発表会を開催した。今年度はファミリー高知の役員や近森会グループの職員以外にも研修会参加を周知し、新規利用者の紹介元の職員が参加するなど、当法人の役割や支援内容を知ってもらうことができた。

③達人研修の実施と発表会の開催

各事業のベテラン職員を対象に、【達人研修】と銘打った現職者研修を実施した。ベテラン職員が当センターの理解を深めるだけでなく、自身の配置事業で取り入れるべき支援内容、研修先への業務改善の提案などの成果が得られた。また後日の研修発表においてはベテラン職員らしい人となりや個性が存分に発揮された発表内容となり、各事業が横軸の繋がりを感ぜられる時間を共有できた。



研修終了者には
エキスパートバッジが授与される

④各事業のマインドブラッシュアップ

ここ5年間の当センターの組織改革が進む中で、改めて所属事業の大切にしているものや外部機関へのセールスポイントなどの強みを再確認することができ、その内容を全事業の職員で共有することができた。



6月24日成果発表会



2月8日達人研修発表



3月30日マインドお披露目会

2024年度へ

- 新入職員を含め、様々なステージの職員が働き甲斐やステップアップを実感できる教育計画を企画
- 各事業が年間で「3つの学び」を通して支援力を高め、伝達講習会を開催し全職員で共有
- 各事業の教育の軸を担う委員（主任）自身のステップアップ



地域交流委員会の取り組み

■ 総括

新型コロナウイルスが5類に移行し、社会的に行動制限が緩和されると共に、気持ちの部分でもイベント開催を楽しめるようになった1年でした。今年度は「できること」をモットーにこれまでの内容から大きく変化せず利用者も職員も地域のみなさんも「思い出す」時間だったように思います。

しかし、感染の脅威がなくなった訳ではなく、常に感染状況を確認し、対策を講じながら、楽しい時間を季節の節目に過ごすことが出来ました。日常業務量が増える中、行事開催は普段と異なるエネルギーが必要となりますが、部署や所属の垣根を超えて交流することの意義はそれ以上の価値や目的達成につながると改めて感じました。来年度はさらに本委員会の目的にもなっている「地域交流」を日常的にも実行でき、「地域を知り、つながり、守り、元気になる」ことにつなげていきたいと考えています。

■ 開催イベント一覧

実施日時	イベント名	内容
4月18日～5月9日	端午の節句	こいのぼり展示
7月7日	七夕イベント (願いを込めたメニュー)	選択メニュー (マクドナルド風 or 吉野家風)
8月10日	暑気払い	アイスクリン提供(昼食時)
11月3日	ハビリの秋祭り  内ノ谷秋祭り	ステージイベント (ダンスショー/カップラーメン積み) 利用者出店、外部業者出店、保護犬猫 フリーマーケット等 内ノ谷秋祭り参加
12月18～26日	クリスマス	中庭にイルミネーションの展示、 
1月5日	お餅つき	餅つき体験、餅の振る舞い
3月20日	お花見	イベント食の提供、ステージイベント 外部業者出店



2024年度へ

- ・四季折々の季節を感じるイベントの継続開催
(利用者/職員からのアイデア出し：実行委員会への参画)
- ・【やるなら120% ハビリ全体で時に地域を巻き込んで】
- ・11月3日の秋祭りを「新秋祭り」へ

栄養委員会の取り組み

■総括

利用者が楽しくおいしく食事ができるよう、イベント食や季節メニューの提供を、エームサービスと連携をとり、実施しました。また、嗜好調査の結果を参考に、通常メニューの内容について検討を行いました。また、利用者のコロナ感染が発生した際は、昨年度と同様、エームサービス・施設職員と協力し、感染拡大を防ぐための食事提供を行いました。

■実施状況

	実施日
第 1 回	2023 年 4 月 18 日
第 2 回	2023 年 5 月 16 日
臨時	2023 年 6 月 1 日
第 3 回	2023 年 6 月 20 日
第 4 回	2023 年 7 月 18 日
第 5 回	2023 年 8 月 15 日
第 6 回	2023 年 9 月 19 日
第 7 回	2023 年 10 月 17 日
第 8 回	2023 年 11 月 21 日
第 9 回	2023 年 12 月 19 日
第 10 回	2024 年 1 月 16 日
第 11 回	2024 年 2 月 27 日



■実施内容

① 食に関する情報の提供

休止していた食に関する情報の提供を、2023年6月より再開しました。季節や行事に合わせた食に関する雑学や、健康に過ごすために食の面からできることの情報など月1回発行し、掲示することで利用者に食や健康に関して興味を持ってもらうきっかけを作ることができました。

② 季節・イベント食の実施

季節に合わせた食事や、お月見・クリスマス・年末年始の行事食など、食べることで季節を感じ、楽しめるような食事を提供いたしました。また、七夕のイベントメニューでは、地域交流委員会と連携し、食べたいメニューのアンケートをとり、食事・デザートそれぞれ選択メニューとするなど、提供前から楽しめるようなイベント食となりました。

③ コロナ感染症対策に配慮した食事の提供

施設入所利用者と通所利用者の食事場所の分散利用を引き続き実施することで、感染防止に努めるとともに、感染症発生時には接触を避けるよう、速やかに対策を行いました。

④ 栄養マネジメントの実施

施設入所利用者一人一人に合わせた栄養ケア計画を作成し、栄養評価を行いながら間食についての指導を実施し、栄養補助食品の使用の検討等を行いました。

⑤ 嗜好調査の実施（結果は後方に別添）

2024年度へ

- 季節や行事に合わせた楽しめる食事を企画します。
- 栄養マネジメント業務を通して、利用者と一緒に目標を考え、栄養面からサポートします。
- 給食委託会社であるエームサービスとの連携を図り、質の高い食事の提供を継続します。

2023 年度 食事アンケートの結果

2024 年 2 月 28 日
施設入所 管理栄養士 中平

食事についてのアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。
アンケートの結果をまとめたものを、公表いたします。

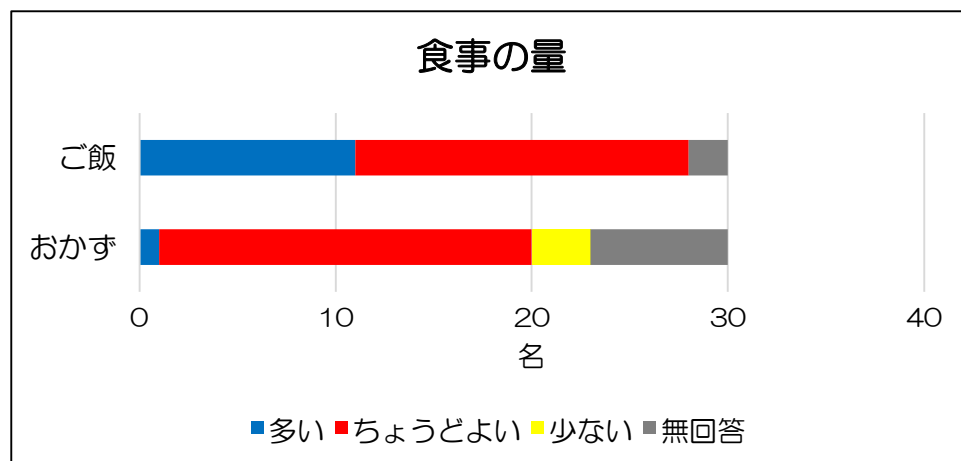
アンケート実施日：2024 年 1 月 24 日～1 月 31 日

対象：施設入所利用者 36 名

回答率：83.3%（36 名中 30 名）

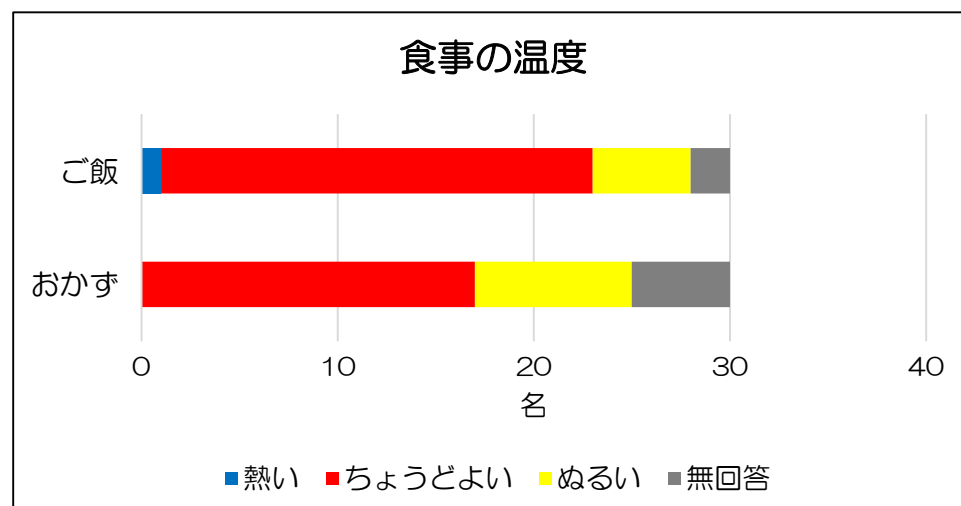
①食事の量はいかがですか？

	多い	ちょうどよい	少ない	無回答
ご飯	11 名	17 名	0 名	2 名
おかず	1 名	19 名	3 名	7 名



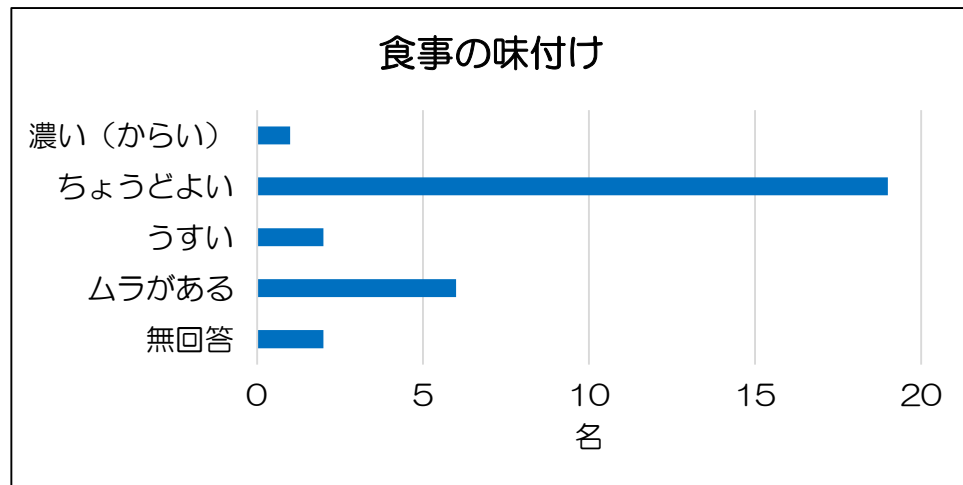
②食事の温度はいかがですか？

	熱い	ちょうどよい	ぬるい	無回答
ご飯	1 名	22 名	5 名	2 名
おかず	0 名	17 名	8 名	5 名



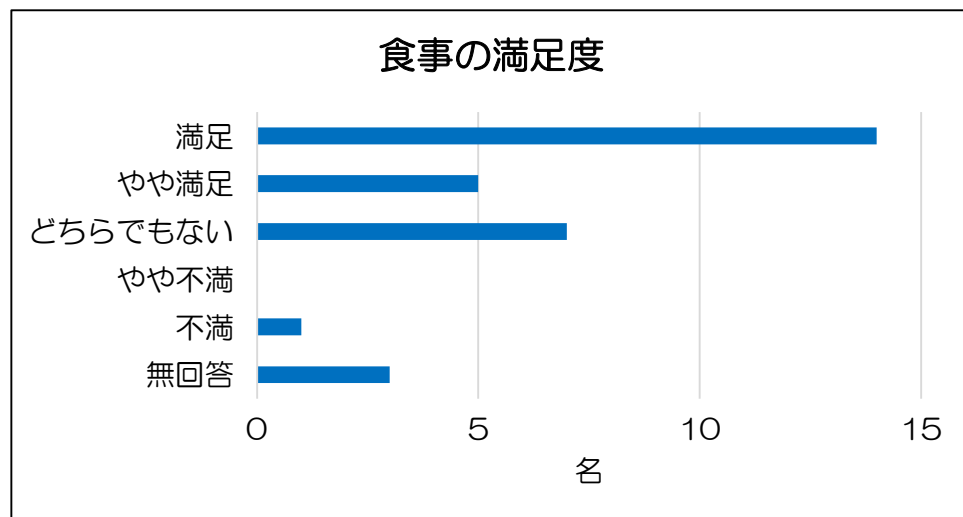
③食事の味付けはいかがですか？

濃い (からい)	ちょうど よい	うすい	ムラが ある	無回答
1名	19名	2名	6名	2名



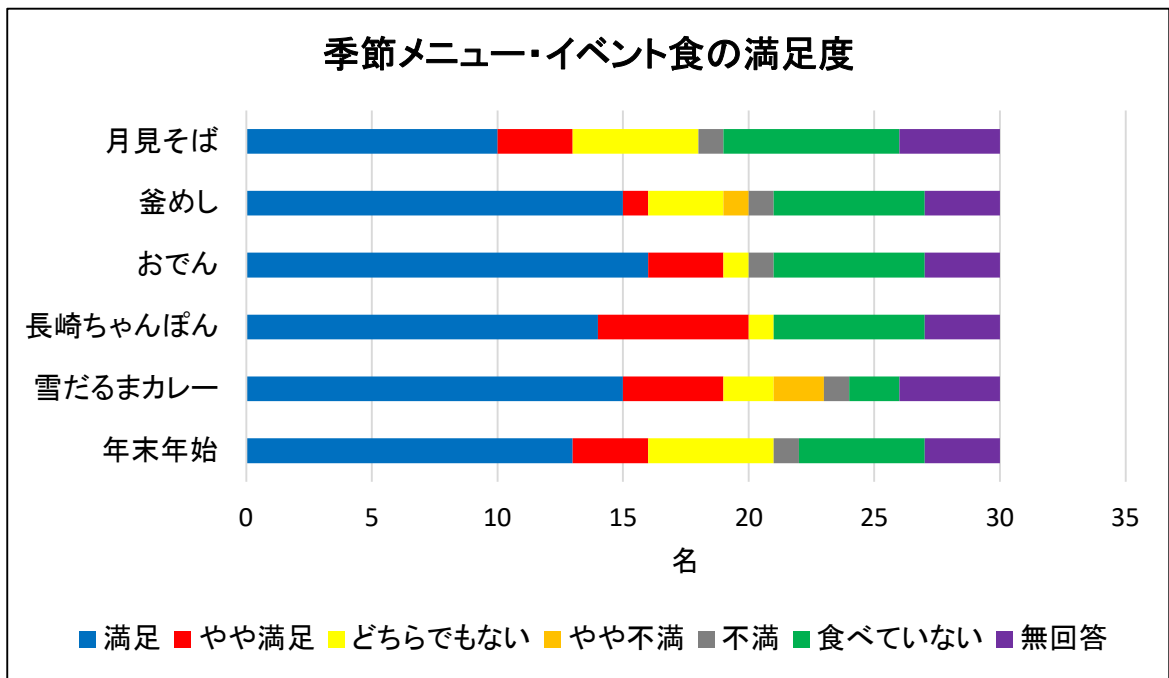
④食事に満足していますか？

満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	無回答
14名	5名	7名	0名	1名	3名



⑤季節メニューやイベント食について、満足できる内容でしたか？

	月見そば	釜めし	おでん	長崎 ちゃんぽん	雪だるま カレー	年末年始
満足	10名	15名	16名	14名	15名	13名
やや満足	3名	1名	3名	6名	4名	3名
どちらでもない	5名	3名	1名	1名	2名	5名
やや不満	0名	1名	0名	0名	2名	0名
不満	1名	1名	1名	0名	1名	1名
食べていない	7名	6名	6名	6名	2名	5名
無回答	4名	3名	3名	3名	4名	3名



◆ 提供されている食事の中で、好きなメニューや苦手なメニューがあれば、ご記入ください。




【好きなメニュー】



4位：1票

かつとじ煮・鮭の山賊焼き・エビマヨ・ステーキ・焼き肉・かきあげ・きびなご・ぜんまい・豆腐ハンバーグ・チャーハン・中華・パスタ・おでん・年末のそば・ビーフカレー・釜飯・パン類・野菜・果物・湯豆腐・じゃが芋の煮物・天ぷら・煮豆・コロッケ・春巻き・エビチリ・さつまいものレモン煮・マーボー豆腐・かぼちゃの煮物

【苦手なメニュー】

-  オクラ (4票)
-  納豆・炒り豆腐 (2票)
-  1票 カツオのたたき・魚・鶏・トマト・きゅうり・からいもの・うの花・キャベツの酢みそ和え・なすの酢味噌かけ・麺類・煮物・野菜ジュース・クロレラ・もずく・きんぴらごぼう・なす・きのこ・たいも

【こんなメニューを出してほしい】

刺身・シチュー・グラタン：複数いただきました

<主食>

卵かけご飯・ピザ・肉うどん・ハンバーガー・お寿司・塩ラーメン・スパゲティ・サンドイッチ・担々麺・オムライス・チキンカレー・ビーフカレー・お肉ゴロゴロのカレー・お好み焼き・親子丼・赤飯

<汁物>

いのちのスープ・芋煮汁・豚汁

<おかず>

煮物・大根と人参の煮物・豆腐・セロリの炒め物・茹で卵・卵・肉・おでん・焼き肉・和風唐揚げ・たこときゅうりの酢の物・冷奴・チンジャオロース・八宝菜・高野豆腐・おから・大根と人参の酢物・三色なます

【その他ご意見】

- 朝のボリュームが足りない・朝のおかずを増やしてほしい
- もっと違ったメニューを考えてほしい
- パン食を増やしてほしい
- キーマカレーの時豆じゃないやつも食べたい
- 果物を週1回つけてもらえると嬉しいです
⇒様々なご意見をいただきありがとうございます。栄養委員会を通して、委託給食会社とも検討し、「こんなメニューを出してほしい」という意見も併せて、提供メニューについては考えていきたいと思えます。
- いつもありがとうございます
- 最近味付けがかわっておいしく感じます、特におみそ汁がおいしく思います
- 栄養バランス・整腸効果等いろいろ考えて作っていただきいつもありがとうございます
- 季節メニューは楽しみです
- お食事については満足ですが、バレンタインのチョコを食べたいです
⇒たくさんの感謝の言葉をいただき、本当にありがとうございます。今後も皆様に安心安全で、美味しく、また楽しんでいただける食事を提供していきたいと思えます。

【まとめ】

食事の量や温度、味付けについて半数以上の方が「ちょうどよい」との回答であり、また「満足」・「やや満足」との回答もあわせて半数以上あり、多くの方が現在の食事に満足していただいていることが分かりました。その一方で満足ではないご意見もいただいておりますので、改善できるところについては、委託給食会社と連携し、改善を図っていきたいと思えます。

好きなメニューや、苦手なメニュー、提供してほしいメニューなど、たくさん記入していただき、集計するのが楽しかったです。いただいた意見を参考に、通常メニューの内容や、季節メニューやイベント食を考えていきたいと思えます。

アンケートにご協力いただき、本当にありがとうございました。

ふくらむ委員会の取り組み

■総括

2023年度は新型コロナウイルス5類移行で少しずつイベントなども開催できる運びとなりました。各事業が精力的に取り組まれた活動を取り上げ、広報誌も充実した内容を載せることができました。地域との繋がり、利用者や職員の奮闘、目標達成報告など読み応えある企画を掲載できたと思います。さらに今年度は、発行部数の確認も行い必要部数を精査することに取り組みました。

■委員会開催一覧

実施月	内容	実施月	内容
4月	春夏号記事確認	10月	秋号完成、発送準備作業、発行、校正新年号記事提案
5月	春夏号記事確認、校正	11月	新年号記事担当振分け、確認
6月	春夏号完成、発行 秋号記事提案、発送準備作業、発行	12月	新年号記確認、校正
7月	秋号記事担当振分け	1月	新年号完成、発送準備作業、発行 春夏号記事提案
8月	秋号記事確認、校正	2月	1年振り返り、春夏号記事担当振分け、確認
9月	// 秋号完成	3月	次年度委員決定、春夏号記事確認

■ふくらむ委員会

実施回数：12回（毎月1回第4火曜日）

実施内容：掲載記事の打ち合わせ

ホームページ掲載情報確認

発行部数：春夏号500部

秋号500部

新年号500部

内関係機関発送部数：各号200部

（学校、医療機関、行政機関、事業所、福祉サービス事業所他）



2024年度へ

- ・読む人が笑顔になるような記事を掲載します。
- ・年3回の発行を継続し発送先においても精査し、広く広報誌を知っていただくように努めます。
- ・定期的な委員会活動を行い、記事の提案や情報共有を行っていきます。
- ・新たな取り組みや、頑張っている人にスポットを当て、楽しい紙面づくりを目指します。
- ・農福連携や地域との繋がりを大切にし、読み応えある記事を製作できるように努めます。
- ・配送事業の変革に伴う発送時のコスト削減や手続きへの対応へも柔軟に対応していきます。

ブレースチェックラウンドの取り組み

■ 総括

今年度よりブレースチェックラウンドを開始しました。目的は、利用者の方々が使用されている補装具（下肢装具、車椅子等）・日常生活用具等（杖、歩行車等）が、安全に且つ正常機能を果たしながら使用できているかの確認を行い、安心して生活・仕事が行えるように施設全体で取り組みました。

■ 【対象者】

補装具・日常生活用具を使用している施設入所、グループホーム及び通所利用者

■ 【対象補装具】

- ・ 下肢装具（長下肢装具、短下肢装具、足関節装具、義足等、※靴も含める）
- ・ 歩行補助具（車椅子、杖、歩行車等）

■ 【通所利用者の実施状況】 ※入所利用者：自立訓練事業内で介入及び支援。



実施日	実施対象者数	補装具・日常生活用具の改善の提案と修正を実施した数(重複あり)
2023年4月	22名	下肢装具 4/14名 歩行補助具 14/19名
5月	21名	下肢装具 2/13名 歩行補助具 3/18名
6月	18名	下肢装具 3/11名 歩行補助具 2/17名
7月	18名	下肢装具 4/11名 歩行補助具 3/17名
8月	18名	下肢装具 3/11名 歩行補助具 1/17名
11月	18名	下肢装具 1/11名 歩行補助具 3/17名
12月	1名	判定医療機関：装具作成利用者

■ 課題

今年度より開始した当委員会では、補装具や日常生活用具等の物品を適切に使用できる提案や修正を行うことで、生活や活動が安全に行える環境づくりに施設全体で取り組みました。通所利用者については、管理の必要性及び方法の知識の不十分さからメンテナンスが行えていない状態の方が多くいました。委員会を実施したことの気づきとしては、物品の不具合や破損が生じていても、利用者自身の「気づきの弱さ」があったこと、気づいていても「その物品に慣れている」ことで、問題として捉えられていない場面が多くあったことでした。加えて、今年度は参加希望者のみとした為、介入が必要であろう利用者へ支援が届かなかったことが課題と捉えています。来年度は、当委員会の取り組みの必要性を感じていただく声掛けを各事業のスタッフから行えるように、スタッフのスキルアップに取り組むと考えています。

2024年度へ

- ・ 利用者の自立管理を高める為に、職員の知識や対応を高める活動に取り組むと考えています。

事故報告

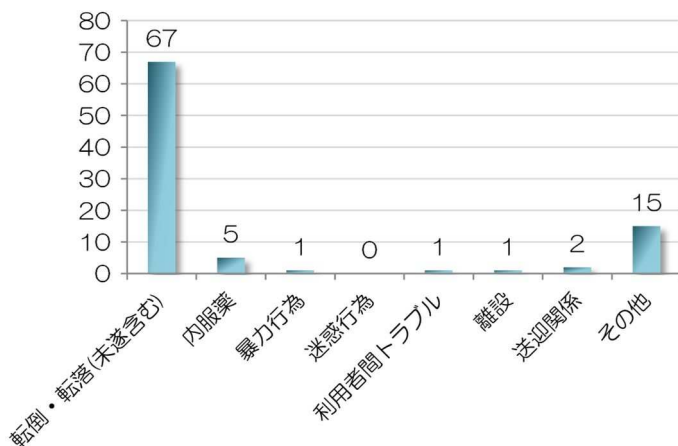
■ 総括

各事業で提出された事故やインシデント・アクシデント報告書では、利用者に影響がなかったインシデント 92 件（前年比−34）・アクシデント 5 件（前年比−8）・事故レベル 14 件（前年比+10）の報告が提出されています。事故レベル 3 は物の紛失と投薬ミス、事故レベル 4 では転倒による骨折が 2 件と捻挫が 4 件、風呂場での転倒による頭部切傷などです。レベル 5 では、障害者支援施設入所の利用者が自室 2 階より転落され、救急搬送にて入院加療を受けられています。事故の該当者は 20 歳代から 50 歳代、身体障害や精神障害など心身に障害を負っておられ事故要因など様々な状況にあります。事故発生時には、迅速に現場検証を行い原因分析と対応を協議し、同じ事故が起こらないように努めています。

■ 事故発生状況

事故レベル	事故レベル定義	障害者支援施設	アルパーテ	はるのハピリホーム	キュール	法人本部	その他	全体
0~1 (インシデント)	ヒヤリ・ハットすることはあったが利用者に影響はない 何らかの可能性があり経過観察の結果影響はない	65	11	7	8	1	0	92
2 (アクシデント)	医療機関への受信が必要となった 受診の結果、縫合や固定処置などは必要なかった	0	2	1	2	0	0	5
3 (事故)	受託先や発注先とのトラブルやクレームに対して謝罪や弁償を行った。利用者間同士のトラブル	3	0	2	0	0	0	5
4 (事故)	事故のため通院治療や長期にわたり治療や入院が必要となった	6	2	0	0	0	0	8
5 (事故)	事故が死因となった 自傷・他傷（自殺企図や暴力）にて病院受診となった	1	0	0	0	0	0	1

■ インシデント 92 件の内訳



【転倒の分析】

- ・移動様式は車いす 6 割、自立歩行 4 割
- ・転倒の約半数は高次脳機能障害者
- ・車いす使用者の約 7 割が支援時間外の居室かつ自立判断でない方の独力行為で発生
- ・自立歩行者の約 6 割が他者との接触や屋外の不整地、IADL 場面などの応用場面で発生
- ・転倒未遂の報告は 6 %
- ・転倒を繰り返す 3 名の利用者が全体の転倒回数の約半数を占める

【アセスメント及び対策】

- ・移動様式の違いによる転倒リスクの大小は無く、個別のアセスメントが必要と思われる。
- ・高次脳機能障害の特性を医学的に正しく理解し、有効な転倒予防策の立案が必要と思われる。
- ・支援時間外の居室での転倒を予防するためには居室内の環境調整や動作指導が重要である。
- ・自立歩行者は応用動作訓練や屋外歩行等の様々な経験を提供する必要がある。
- ・昨年度に比べ転倒未遂の報告が増えており、転倒予防の視点が周知されつつあると感じる。
- ・転倒を繰り返す利用者に対して職員の見守り強化や口頭指導は全く無意味な対策であることを理解し、視覚支援や環境調整など具体的な対策案を速やかに実施し、絶えずアセスメントが必要である。

2024 年度へ

- ・事故等発生時において適切かつ迅速な対応をとるとともに、事故等の発生要因や再発防止策の実効性を検証し、利用者等に対するサービスの質の向上及び施設等の運営の適正化に努めます。
- ・車いすや補装具のメンテナンス不良による転倒が無かったことは、昨年度に立ち上げた「ブレースチェックラウンド」の効果であると思われるため、次年度も引き続き実施していく。

はじめに

新型コロナウイルスの影響を最も受けた 2022 年度から、【Reborn (再起)】までとはいかないまでも再起するための準備ができた 2023 年度となりました。毎年恒例となった北本町マラソンやウェーブフェスティバル、農家や JA との連携などはより規模を拡大し取り組むことができました。また低迷してしまっていた軽作業などの就労収入はクリーニングの単価交渉を行ったことで何とか挽回することができ、利用者それぞれの生活の維持、働く場所の確保、楽しみや新たな経験の場の提供ができたのではないかと思います。また病院看護部などのユニフォームのバーコード化準備や支援ソフトの導入準備など 2024 年度の飛躍に向けて確実に準備ができた一年となりました。

事業実績概要

2020 年以來 “月延べ利用者数 A 型 B 型合わせて 1,200 名” を目標とし取り組んできましたが今年度到達できたのは 5 月のみでした。(グラフ 1 参照) 新型コロナウイルスへの対応は緩和したものの継続的な感染者の発生とそれに伴う出勤規制などもあり利用者数は伸びず、新規

の相談から利用につながってもほぼ同数の方が利用終了となってしまい登録者数も伸びない状況でした。利用者確保については各東西南北の相談センターやデイケアへの営業を心がけ、特別支援学校の実習も積極的に引き受けており、2024 年には回復

できると見込んでいます。就労収入に関しては、クリーニングの単価見直しの効果により就労収入は上がり、昨年と同様の B 型工賃水準、A 型の最低賃金を保つことができました。(グラフ 2 参照) それに加え 2023 年 9 月に A 型を利用していた 2 名が一般就労し、半年経過した現在でも働き続けています。

働き続けるためには就職した 2 名の努力だけでなく、就職先の方々の厳しくもあたたかいかわりと業務の切り分けなどの環境づくりがカギとなり、ジョブコーチの導入や必要時には面談を設けるなど丁寧な支援が今後も必要となります。毎年各事業から 1 名は一般就労へ！とも考えますが、実際には一般就労希望者は少なく現状のサービスを利用しながら生活を維持していきたい方が大半です。少しでも一般就労へ気持ちに向かうよう今後も様々な機会を提供し工夫していきたいと考えています。

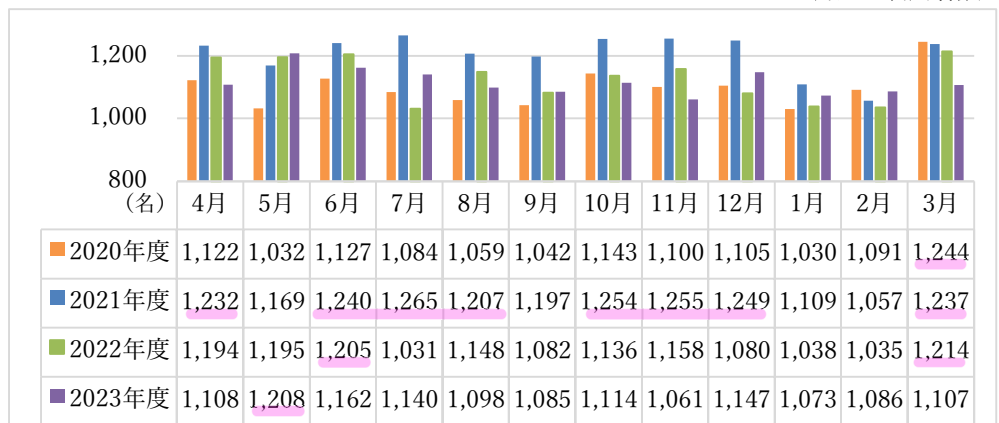
時代にあわせた ICT

利用者も職員も安心安全に働きつづけるため、個人情報の保護のための規定作成と情報を取り扱う場所への適切なシステムを導入し、2024 年 4 月から支援ソフトを導入できるよう準備を行いました。

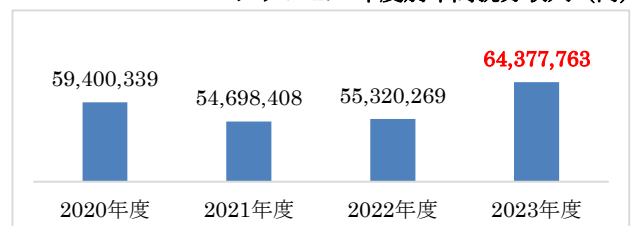
GOAL を目指して

2024 年度に向けて三つの GOAL を設定しました。一つは月延べ利用者数 1,200 名超え、二つ目は一般就労へつながること、三つめは行くのが楽しみ、誇りに思える職場にすることです。利用者を笑顔にし、思いを実現するためには職員自身に活気があり輝いている必要があると思っています。2024 年度は皆でその GOAL を迎えられるよう取り組んでいきたいと考えています。

グラフ 1. A 型 B 型 月延べ利用者数



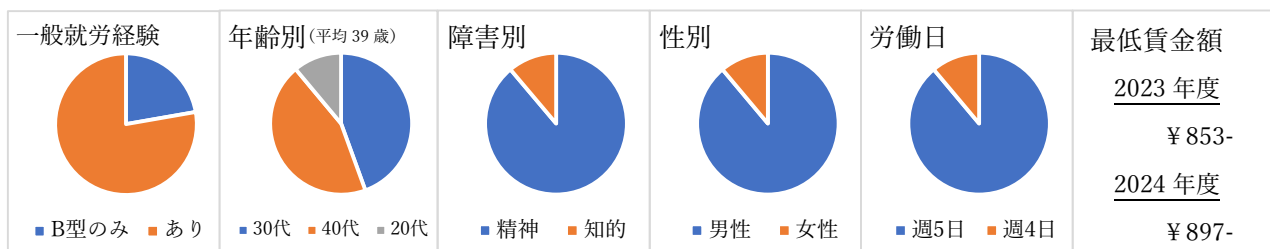
グラフ 2. 年度別年間就労収入 (円)



職員数 13 名 (3月末時点)	センター長（相談支援専門員兼務） 1名 相談支援専門員 1名 サービス管理責任者（うち1名支援員兼務）2名 事務員（支援員兼務） 1名 支援員 8名																																								
会議等	職員会：1回/月、経営戦略会：1回/月、虐待防止身体拘束適正化委員会：1回/月																																								
委員会活動	委員会活動は基本的に利用者とともに活動することを主とし、必要に応じて研修会や集会を開催 虐待防止身体拘束適正化：支援の見直し、委員会の開催、ハビリ委員会への出席 防 災 ：BCP作成、3ヵ月毎避難訓練研修の実施 広 報 ：ふくらむ原稿、ウェブ新聞発行 衛生美化 ：BCP作成とシミュレーション、感染予防、月毎健康チェック 美化設備管理、緑化美化、車両管理 苦情解決 ：利用者からの苦情受付、利用者満足度調査の実施 教 育 ：年間教育計画、高知州市の研修企画、施設内研修企画 マルチイベント：施設外での就労の機会、地域協力、農福連携、利用者イベント計画開催																																								
年間行事	6月 ファミリーユ高知成果発表会 10月 きたほんまちマラソン 11月 ウェーブフェスティバル（文化祭） 12月 表彰式 3ヵ月毎 防災訓練や防災に関する研修																																								
職員研修	<外部研修、資格取得> 精神障害者支援認定 1名 相談支援初任者研修 2名 社会福祉法人会計事務（中級）1名																																								
事故等状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事故レベル</th> <th>分類</th> <th>件数</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レベル0</td> <td>インシデント</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>レベル1</td> <td>インシデント</td> <td>16</td> <td>火傷4件/転倒転落3件/打撲怪我3件/業務過失6件</td> </tr> <tr> <td>レベル2</td> <td>アクシデント</td> <td>1</td> <td>打撲裂傷受診1件</td> </tr> <tr> <td>レベル3</td> <td>事故</td> <td>15</td> <td>軽作業8件/クリーニング6件/施設外1件</td> </tr> <tr> <td>レベル3</td> <td>苦情</td> <td>20</td> <td>軽作業7件/クリーニング13件</td> </tr> <tr> <td>レベル4</td> <td>事故</td> <td>1</td> <td>癲癇発作による救急搬送、その後入院</td> </tr> <tr> <td>車両事故</td> <td></td> <td>3</td> <td>敷地内物損事故3件</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>弁償</td> <td>4</td> <td>軽作業2件/クリーニング2件</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>労災</td> <td>1</td> <td>A型スタッフ自転車通勤中の転倒による骨折</td> </tr> </tbody> </table> <p>※レベル3の事故 多くが業務管理上の過失に より納品間違いや納品不良 により委託先へ迷惑を掛け てしまった事故が主である</p>	事故レベル	分類	件数	詳細	レベル0	インシデント	0		レベル1	インシデント	16	火傷4件/転倒転落3件/打撲怪我3件/業務過失6件	レベル2	アクシデント	1	打撲裂傷受診1件	レベル3	事故	15	軽作業8件/クリーニング6件/施設外1件	レベル3	苦情	20	軽作業7件/クリーニング13件	レベル4	事故	1	癲癇発作による救急搬送、その後入院	車両事故		3	敷地内物損事故3件	その他	弁償	4	軽作業2件/クリーニング2件	その他	労災	1	A型スタッフ自転車通勤中の転倒による骨折
事故レベル	分類	件数	詳細																																						
レベル0	インシデント	0																																							
レベル1	インシデント	16	火傷4件/転倒転落3件/打撲怪我3件/業務過失6件																																						
レベル2	アクシデント	1	打撲裂傷受診1件																																						
レベル3	事故	15	軽作業8件/クリーニング6件/施設外1件																																						
レベル3	苦情	20	軽作業7件/クリーニング13件																																						
レベル4	事故	1	癲癇発作による救急搬送、その後入院																																						
車両事故		3	敷地内物損事故3件																																						
その他	弁償	4	軽作業2件/クリーニング2件																																						
その他	労災	1	A型スタッフ自転車通勤中の転倒による骨折																																						
苦情等状況	7件 サービス提供についての苦情あり 内容：室内環境、支援員の行動、支援員の言葉遣い 検討結果：それぞれ検討会を開催し、説明とともに対応策を提案させて頂き解決となっている。また、6月に年に一度、利用者へのサービス全般についての満足度調査を実施し、書面にて公開している。																																								

就労継続支援 A 型

■2023 年度利用者状況を可視化（登録者 9 名）



一般就労を経たうえで A 型を利用している方、B 型からステップアップで A 型を利用している方がそれぞれ利用し、年齢は平均 39 歳と若く一般の企業へ就職したいと希望されている方も数名所属している。精神障害の方が多く、慣れた環境や慣れた業務を行っていても不安感や気持ちの落ち込みが見られ、他者と自分との関係性や言動に悩みはつきないことも多く継続して勤務することは大変難しい。その中でもクリーニング業務への責任感は強く、日々品質向上のもと働いている。

■利用状況と平均賃金

登録者：9 名

一日平均利用者：7.2 名 月毎利用状況：約 180.7 名

新規：2 名、終了：3 名

月毎平均賃金 95,960 円

■2 名の一般就労者

就職先：近森リハビリテーション病院における病室清掃

■2023 年度の事業目標達成度を評価 『ちがいをちからに ONE TEAM』

■品質向上とチームづくり

『品質向上』を継続して掲げ、洗濯時や納品時の品質向上を目指し取り組んだ。ポケットチェックの徹底も引き続き実施している。事故等の報告書の件数は昨年の 15 件と同数、うちボールペンや印鑑の混入、インクの再汚染の件数は 3 件と昨年同様であった。

また、OWNPASS 独自のマイスター検定試験を継続しており洗濯業の知識や技術を一定に保ち、毎日の終礼と午前午後の進捗確認を行うことで業務の進捗、遅れている担当のフォローなど情報を全員で共有し業務内容の理解を深めながら取り組むことができるようになった。

■農福連携からの恵み

2022 年度の 11 月から行っている JA 春野のきゅうり作業では OWNPASS で学べない厳しき優しさ、仕事に触れることができ、参加しているスタッフがそれぞれ成長していることを感じている。JA 春野ではウェブを模範とした新規福祉事業所も増え、農福連携促進の一役を担うことができた。また、JA 春野での経験を経て、リハビリ病院での実習から 2 名が一般就労へ移行するきっかけにもなった。

■未実施、未達成

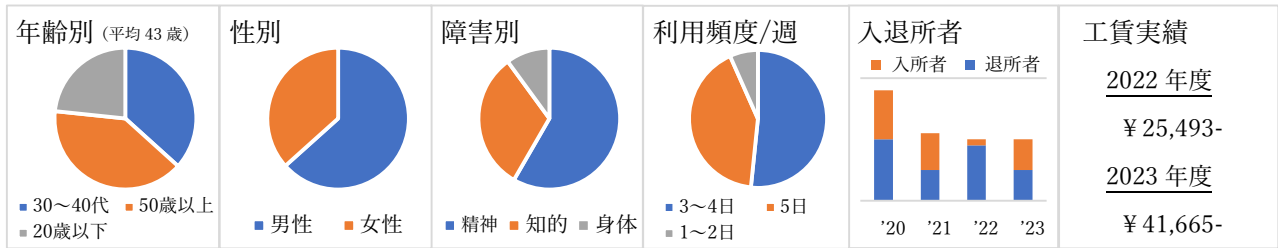
クリーニング師 1 名、10 名雇用の維持を掲げていたが、現状 9 名雇用。見学、体験の受け入れは継続しているが達成には至っていない。クリーニング師については 1 名がチャレンジしたが合格には至らず、学習時間の確保やアイロン技術の研修などの機会の調整など課題が多かった。

■総括

今年度は 2 名のスタッフが一般就労できたことが大きな成果であった。一般就労までの過程やそれを継続するために、手間を惜しまず妥協せず支援を行い、6 ヶ月が経過した今でもそのフォローは続けている。収入面ではクリーニングの単価の見直しや新規委託先も増え、最低賃金に加え賞与を支払うこともでき、ハンガーラックや回収時の備品などの物品購入も行うことができた。一方で 10 名雇用の維持、月利用者の目標数値には到達できなかった。来年度はスタッフの育成と業務改善、新規雇用で稼働率を上げていき、スタッフが自分たちで考え行動できるよう取り組んでいきたい。

就労継続支援 B 型

■2023 年度利用者状況を可視化（登録者 60 名）



JR やバスなどの公共交通の駅からも近い立地のため通所される方が多く、保護者の送迎で通所される方は知的障害の方が主である。年齢は 18 歳から 70 歳までの方が利用し平均年齢は 43 歳。精神障害の方が多くこともあり症状に合わせた利用頻度となっておりデイケアなどの医療的ケアを併用している方も多く。入退院を繰り返し休みがちになる中でも継続して利用できるよう支援員とサービス管理責任者、相談支援専門員が連携し比較的安定的な出勤率を確保している。

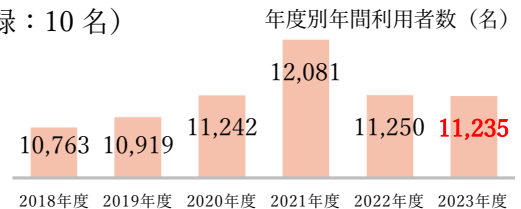
■利用状況と平均賃金

登録者：60 名（軽作業登録：50 名 クリーニング登録：10 名）

一日平均利用者：約 36 名 月毎利用状況：約 936 名

月毎平均工賃：41,665 円

新規：5 名、終了：5 名



■受託業務先

○自主事業：紙エプロン

○清掃：近森病院周辺、施設内清掃

○軽作業：食品関係(カツオ、芋けんぴ、わかめ etc)、ハーネス、紙製品作業、ダイレクトメール

○クリーニング：病棟個人洗濯

○農福連携：ミョウガ、キュウリ、グロリオサ、ピーマンなど

■2023 年度の事業目標達成度を評価 『繋げよう明日へ』

■アセスメント力を上げ、支援力をあげていく

利用者一人一人に担当職員を配置してこれまで年に 1 回だった工賃評価を半年に 1 回に短縮。工賃評価時期を半年に 1 回にしたことでサービス管理責任者と支援員で 1 人 1 人の利用者の現状を掘り下げて検討できる時間が増えたことや支援員と担当利用者の面談の機会が増えたことでより細やかな評価と関わりができ、それを基に個別支援計画を立てて実施することができた。

■利用者が「働きたい場所」と思える創意工夫

様々な作業の提供、イベントの実施、目標に向けてチャレンジができる機会を増やしたことで利用者一人一人が「働きたい場所」と思える支援ができた。

■農福連携

大津のミョウガ農家や三里のグロリオサ、ピーマン農家、JA 春野でのキュウリ作業など前年度よりも作業内容や参加利用者数が増加したことで大きな収入源となった。



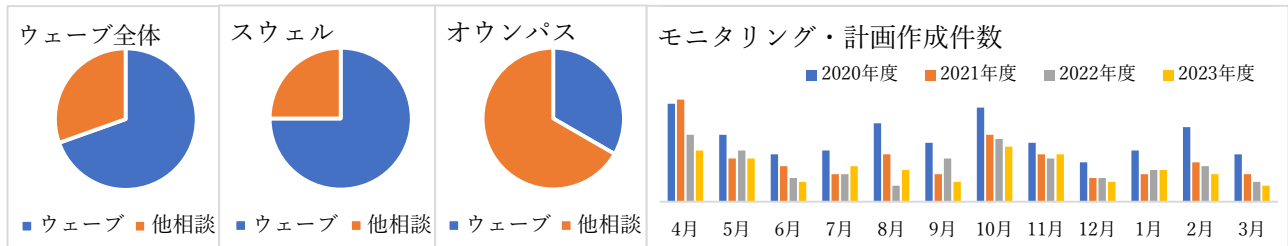
■総括

JA や農園など施設外就労の場が増え一般就労を体感してもらえる貴重な機会となった。今年度も平均工賃 25,000 円以上は維持できたが A 型、一般就労に繋がった利用者がいなかったことが来年度への大きな課題となった。

来年度は引き続き利用者一人一人の思いに合わせた支援を提供できるようアセスメントを強化し、個別の関わりの中で「スウェルは居場所だけではなく就労の場である」という意識を高めていくことをチームで考えていきながら 2024 年度の事業目標を実践していきたい。

特定相談支援

■2023 年度利用者状況を可視化（登録者 48 名）



ウェブを利用されている利用者 69 名のうち 48 名はウェブ相談支援事業所が担っている。2019 年度からウェブ以外を利用されている契約者は外部の相談支援事業所に依頼し、現在はウェブを利用している方のみ契約している。ウェブは精神障害の方が多いため医療との連携は必須であり、その他の障がいの方々も他のサービスやご家族との連携も必要となるため、相談支援事業所が同場所にあることは何よりも利用者の利益につながっており、支援員やサービス管理責任者と役割分担を行うことでより重層的な支援が実現できていると考える。

■利用状況

ウェブ利用者：69 名中 48 名（B 型事業所登録：45 名 A 型事業所登録：3 名）
新規：2 名（デイケアからの紹介）
終了：6 名（ウェブ終了に伴い終了）

■2023 年度の事業目標達成度を評価 『未来へ羽ばたけるかわりを』

■にじいろの関わり

しごとの場や生活の場などの様々な悩みやしんどさを持たれる利用者が多く、家計状況や就労に関する悩み、衛生面についてなど様々な支援に携わった一年であった。家計に対しての支援や利用者宅の衛生管理に携わるなど周囲の支援者と連絡を取りながら支援を行えたように思う。2023 年度から初めて相談支援業務を担当し、にじいろと言えるほどの関わりや支援は知識不足や技術不足で出来なかった部分もあったように感じる。

■当たりまえの姿勢

権利侵害をさせない意識を常に持ちながら、人権侵害に関わる研修も受講し知識のバージョンアップも行った。また日頃の支援の中では、自身の状態に左右されないよう心掛け対応した。何か事態が動いた際には、関係機関と情報共有し支援を行うことが出来た。2023 年度は地域のニーズ等に目を向けることが出来なかった為、今後は外部機関や高知市などと協働を意識したい。

■スムーズ&タイムリー

A 型、B 型が同場所にある利点を生かし、担当者会の実施や情報共有をスムーズに出来た。ホワイトボードを使い、月ごとのモニタリングや更新の数を把握し、期限内に書類提出も行えた。書類のファイリングはモニタリングや更新を行った翌月には実施し出来たが、自己監査は定期的に行うことが出来なかった為、今後は日時を決めて今後は取り組んでいきたい。

■総括

2023 年度は終了者が 6 名、新規利用者が 2 名。終了者 6 名のうち 2 名は一般就労し、残る 4 名は福祉サービス終了に伴う契約終了。
特定相談支援 1 年生として、分からないことだらけの中バタバタと駆け抜けた 1 年であった。そんな中ではあったが、利用者の気持ちに寄り添うことを意識し関わりがもてたことや書類の提出期日を意識しながら日々業務に取り組めた。2024 年度は利用者一人ひとりを個人と捉え、それぞれの様々な思いを個別化して考え支援していく。また自分の価値観にとらわれず利用者の気持ちを受容し、一人ひとりのニーズに合った適切な社会資源の紹介やサービスの調整をしていきたい。様々な理由から何がしたいのかそもそも選択できない人や現状を望まれる方がいる中、様々な経験を通して未来の選択肢を増やせるような関わりをしていき、利用者が自身で考えて決める支援を考え学び実践してけるように心掛けていく。